

人権問題に関する意識調査 概要版

北九州市は、市民の皆様の人権に関する意識を把握し、「人権文化のまちづくり」を推進していく上での資料とするため、平成27年9月に、「人権問題に関する意識調査」を実施しました。この冊子は、その調査結果を取りまとめたものです。

「人権文化のまちづくり」

市民一人ひとりが人権尊重の精神を正しく身に付け、人権を尊重することが市民の日常生活の中で当たり前な行動として自然に現すことができる社会をつくること



北九州市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の沿革	1
2	調査対象者及び調査方法など	1
3	回収状況	1
4	回答者の基本属性	1
II	調査の結果	3
1	人権全般について	3
2	日本の風習などについて	7
3	女性の人権について	9
4	子どもの人権について	11
5	高齢者の人権について	13
6	障害のある人の人権について	15
7	同和問題について	17
8	日本に居住する外国人の人権について	23
9	エイズ患者やH I V感染者の人権について	25
10	インターネットによる人権侵害について	27
11	社会意識・生活意識について	28
12	人権に関する学習や情報について	31
III	調査結果の考察	38

※ この冊子の内容は、調査結果の主要な部分を掲載しています。データほか考察結果の詳細については、別途公表している「人権問題に関する意識調査報告書（第9次）」を参照してください。

※ 図表の表記について

①図表の数値は基本的に比率（％）を示しているが、小数点第2位を四捨五入しているため、必ずしも合計が100%にならない場合がある。

②複数回答可能な設問の回答数では、比率の合計が100%を超える場合がある。

I 調査の概要

1 調査の沿革

「人権問題に関する意識調査」は1976年（昭和51年）以降、5年おきに実施しており、第1回調査（昭和51年実施）から第5回調査（平成7年実施）までは、同和問題を中心とした調査内容となっています。第6回調査（平成12年実施）からは、人権全般に関わる調査項目に内容を変更し、今回調査が第9回調査となります。

2 調査対象者及び調査方法など

- (1) 調査対象：本市に居住する20歳以上80歳未満の男女個人
- (2) 調査対象数：5,000人
- (3) 抽出方法：住民基本台帳から行政区別の人口分布を考慮し、無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送調査
- (5) 調査期間：平成27年9月3日～9月16日
- (6) 調査報告書の監修・総括：広島大学大学院社会科学研究科教授 伊藤敏安
- (7) 調査の実施・集計・報告書作成：株式会社電通九州 北九州支社

3 回収状況

調査対象者5,000人のうち、有効票は2,527票、有効回収率は50.5%です。

4 回答者の基本属性

(1) 性別

有効票2,527票の性別構成比は「男性」が36.6%、「女性」が59.0%、無回答が4.5%である。平成27年3月31日現在の住民基本台帳人口による性別構成比と比較すると、「男性」の回答率が11.4ポイント低く、「女性」の回答率が7.1ポイント高くなっています。

	調査サンプル		市全体	
全体	2,527人	100.0%	719,448人	100.0%
男性	924人	36.6%	345,810人	48.1%
女性	1,490人	59.0%	373,638人	51.9%
無回答	113人	4.5%	-	-

※市全体の人数及び構成比は住民基本台帳の20～79歳の人口719,448人を総数とし、その総数に対する比率で算出しています。

(2) 年齢構成

20代（20～29歳合計）が最も少なく、最も多いのは60代（60～69歳合計）です。

平成27年3月31日現在の住民基本台帳人口による年代別構成比を用いて調査サンプルとの差異を見ると、市全体に比べて20代の割合が5.9ポイント低く、その他の年代では30代（-3.6%）、40代（-2.9%）、50代（+1.7%）、60代（+3.7%）、70代（+1.9%）の差異となっています。

全体	調査サンプル		市全体	
	2,527人	100.0%	719,448人	100.0%
20～29歳	190人	7.5%	96,261人	13.4%
30～39歳	318人	12.6%	116,372人	16.2%
40～49歳	386人	15.3%	131,011人	18.2%
50～59歳	448人	17.7%	114,859人	16.0%
60～69歳	607人	24.0%	145,706人	20.3%
70～79歳	453人	17.9%	115,239人	16.0%
無回答	125人	4.9%	-	-

※市全体の人数及び構成比は住民基本台帳の20～79歳の人口719,448人を総数とし、その総数に対する比率で算出しています。

(3) 職種別

職種別構成比は、「家事専業」が最も多く、次いで「事務職・技術職」、「主として恩給・年金で生活」の順となっています。

	サンプル数	農林漁業	自営業者	販売職・サービス職	技能職・作業職	事務職・技術職	経営者・管理職	専門職・自由業など	家事専業	学生	主として恩給・年金で生活	無職	その他	無回答
全体	2,527人	0.6	4.8	9.7	8.5	17.0	2.7	2.7	19.1	1.7	12.0	10.6	2.8	7.7

(4) 世帯構成別

世帯構成別構成比は、「二世帯世帯」が44.5%を占め、「夫婦のみ」が28.0%、「ひとり暮らし」が12.1%、「三世帯世帯」が6.0%、「その他（四世代世帯、兄弟姉妹や親類と同居、他人と同居など）」が3.2%です。

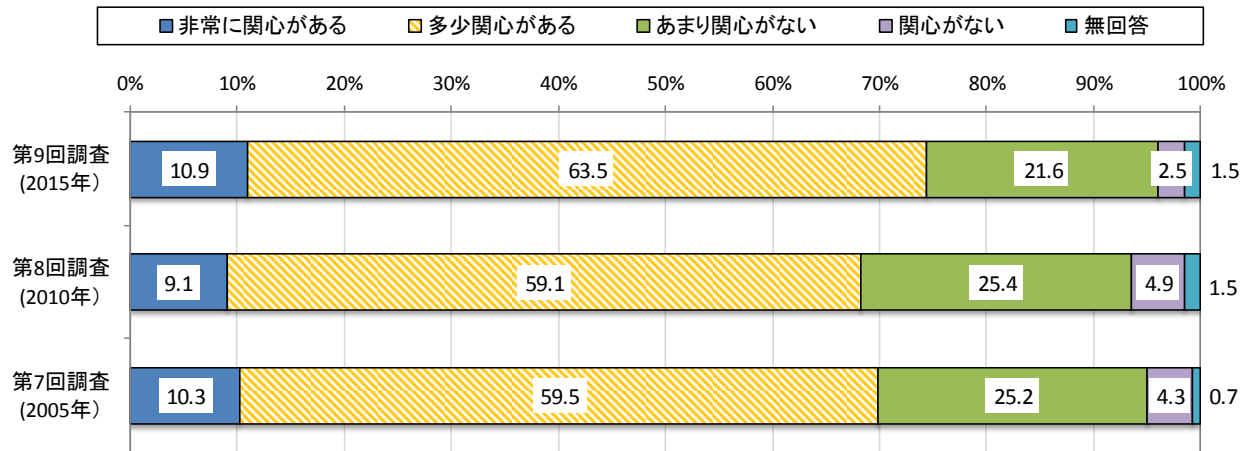
	サンプル数	ひとり暮らし	夫婦のみ	二世帯世帯 (親と子など)	三世帯世帯(祖父 母、父母、子など)	その他(四世代世帯、 兄弟姉妹や親類と 同居、他人と同居など)	無回答
全体	2,527人	12.1	28.0	44.5	6.0	3.2	6.2

II 調査の結果

1 人権全般について

【問1 あなたは、人権問題・差別問題に、どの程度関心を持っていますか。】

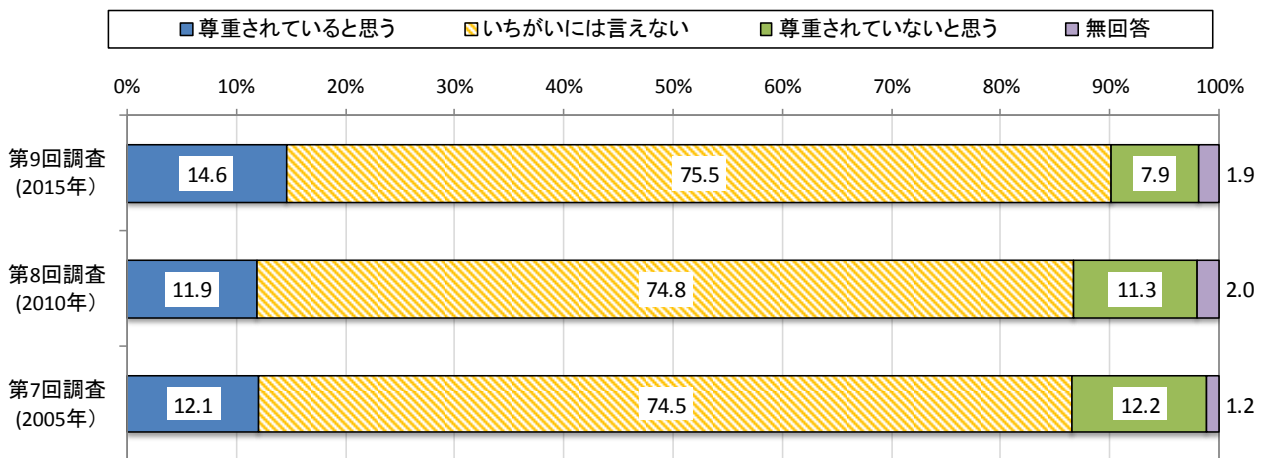
関心層（非常に関心がある＋多少関心がある）の割合は74.4%、無関心層（あまり関心がない＋関心がない）の割合は24.1%です。関心層の割合は、前々回の第7回調査から第8回調査で若干低下していましたが、今回第9回調査では関心層の割合が74.4%と前回調査の68.2%に比べて6.2ポイント高くなっています。



【問2 今の日本は、人権が尊重されている社会だと思いますか。】

「尊重されていると思う」の割合は前々回、前回ではほぼ横ばいでしたが、今回の調査では14.6%と前回の11.9%から若干上昇しています。

「いちがいいには言えない」も今回の調査が75.5%と前回の74.8%に比べて若干高くなっています。「尊重されていないと思う」は今回が7.9%と前々回、前回から徐々に下降傾向にあります。



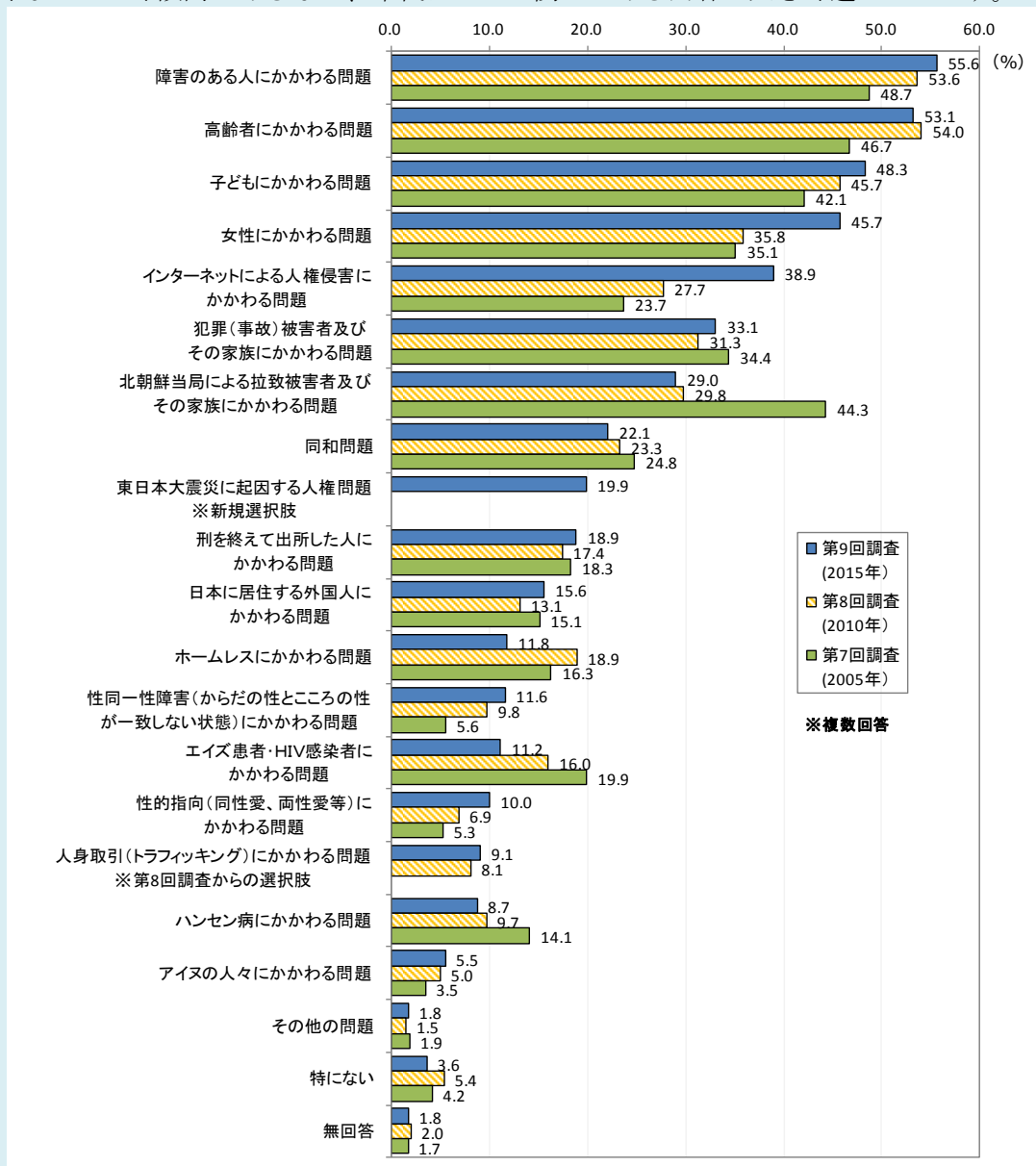
【問3 日本の社会には基本的人権にかかわる問題がいろいろありますが、あなたはどのような問題に関心がありますか。】

前回は「高齢者にかかわる問題」が最も関心度が高く、次に「障害のある人にかかわる問題」となっていますが、今回は「障害のある人にかかわる問題」が最も多く、次いで「高齢者にかかわる問題」、「子どもにかかわる問題」、「女性にかかわる問題」の順となっています。

「女性にかかわる問題」と「インターネットによる人権侵害にかかわる問題」は、どちらも前回に比べて10ポイント程度高くなっており、近年人々の関心が高くなっている傾向がうかがえます。

年代別でみると、「高齢者にかかわる問題」は20代～30代の関心度が低く、「70歳以上」が65.6%と最も高くなっています。

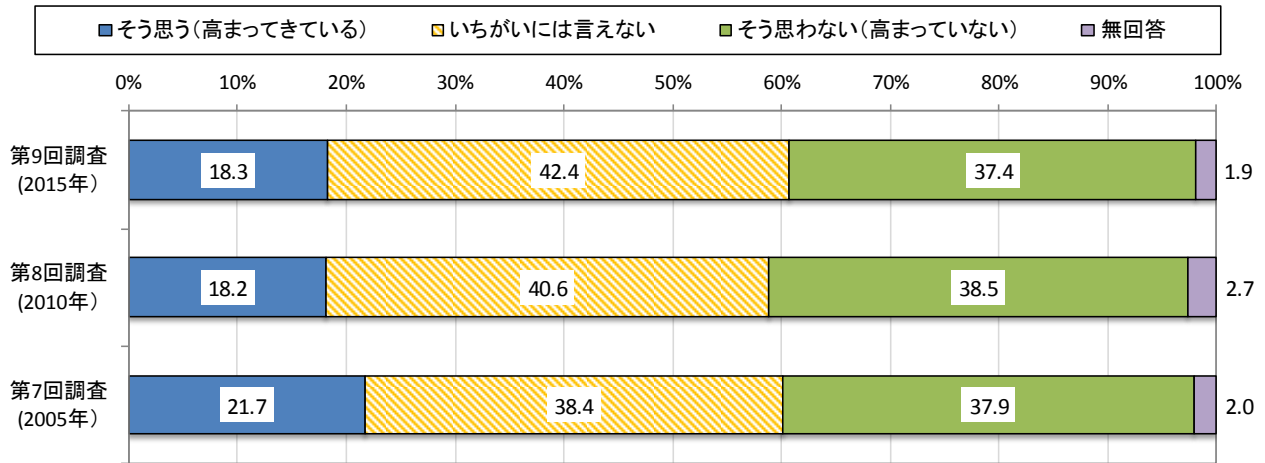
一方「女性にかかわる問題」は、20代～30代の関心度が高く、60代以上の高齢者は関心度が低い結果となっており、また「北朝鮮当局による拉致被害者及びその家族にかかわる問題」は、年齢とともに関心度が高くなっていく傾向があるなど、年代によって関心のある内容が大きく違ってきます。



※今回（第9回）調査では、「東日本大震災に起因する人権問題」を新しく追加しています。

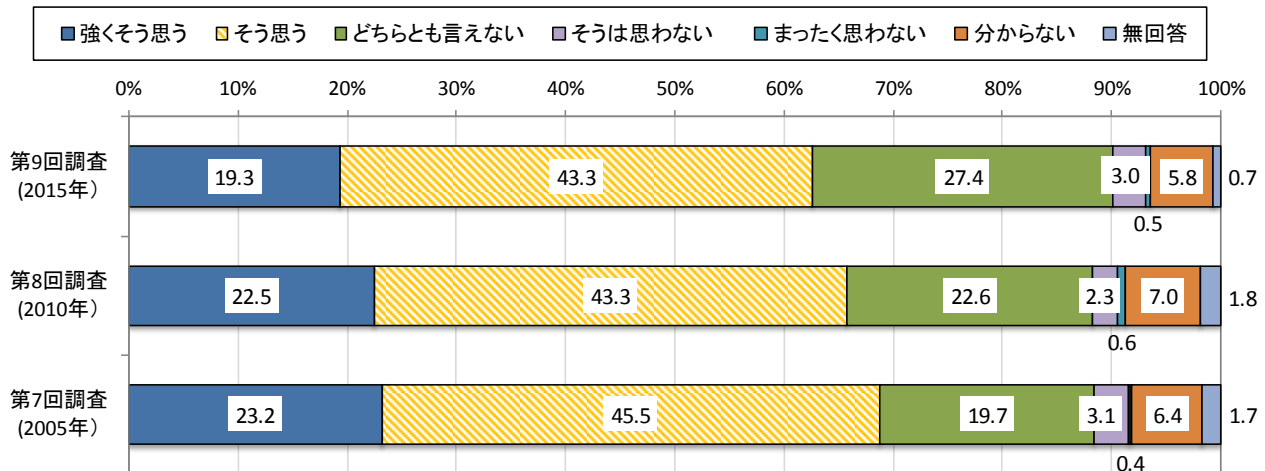
【問4 国民一人ひとりの人権意識は、5～6年前と比べて高くなっていると思いますか。】

「そう思う（高まってきている）」は18.3%、「そう思わない（高まっていない）」は37.4%です。「そう思う（高まってきている）」の割合は前回とほとんど変わらず横ばいです。「いちがいいには言えない」は少しずつではありますが、前々回、前回、今回と回を追うごとに徐々に上昇しています。性別でみると、「そう思わない（高まっていない）」は、男性の方が女性に比べて若干高くなっています。



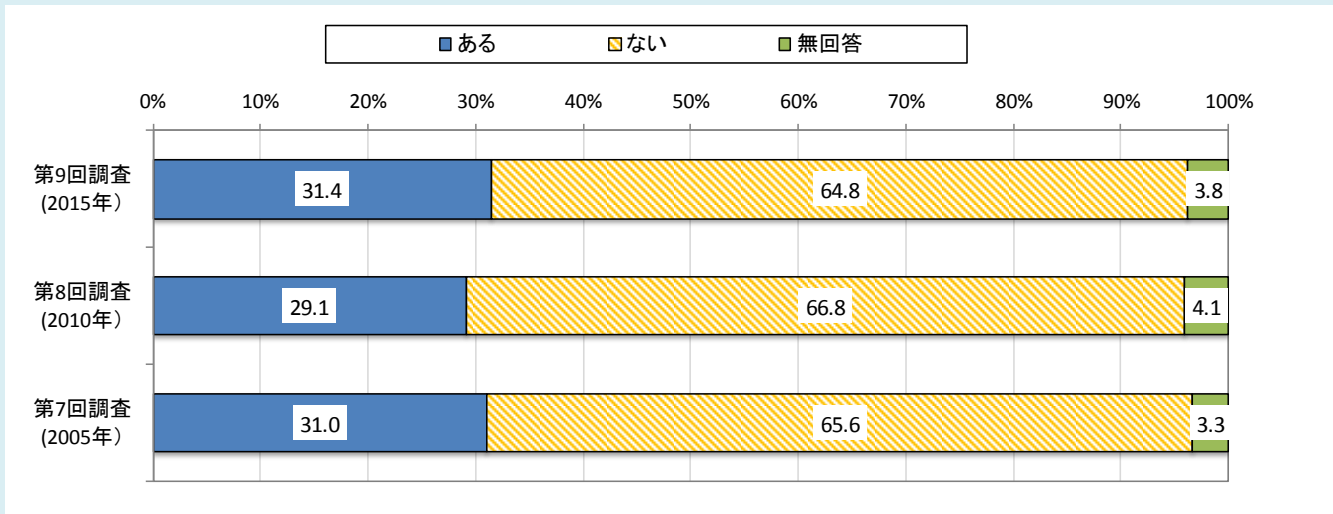
【問5 マスメディア等で、「自分の権利のみを主張して、自分の責任や義務を考えない人が多い」という意見が聞かれますが、あなたはこの意見についてどう思いますか。】

肯定派（強くそう思う＋そう思う）が62.6%、否定派（そうは思わない＋まったく思わない）が3.5%と肯定派が6割を超えています。「強くそう思う」、「そう思う」を合わせた肯定的回答の割合は前々回、前回、今回と回を追うごとに低下傾向にあります。一方「どちらとも言えない」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに上昇傾向にあります。



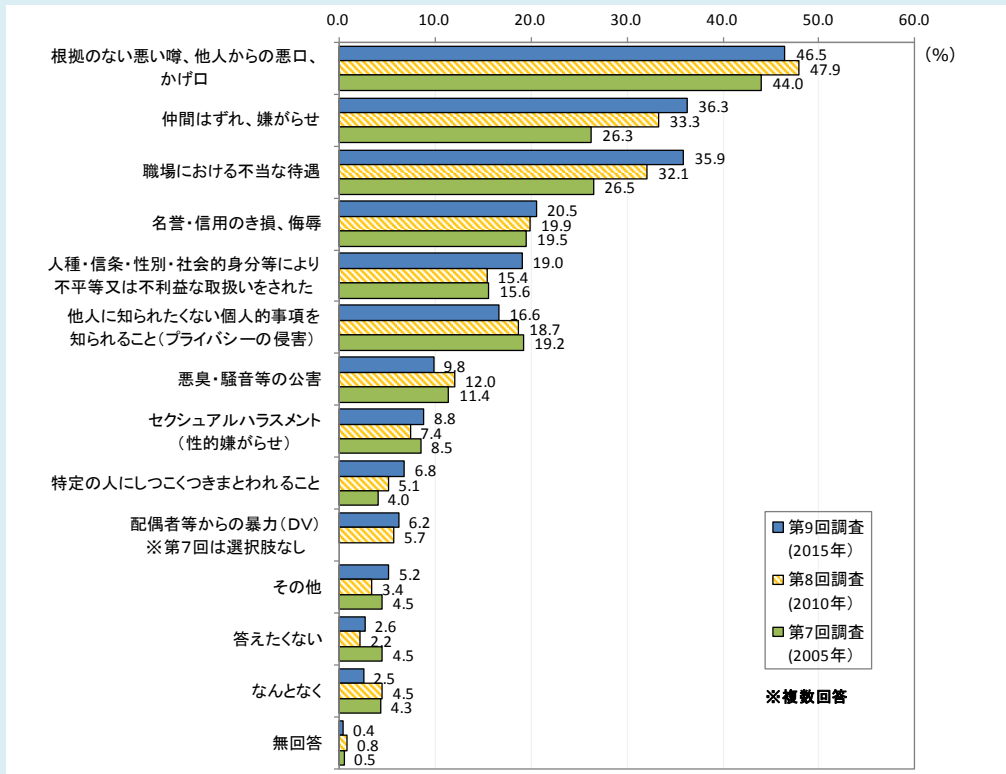
【問6 あなたはこれまでに、自己的人権が侵害されたと聞いたことがありますか。】

これまでに人権侵害を受けたことがある人は、前々回、前回、今回と全体の3割前後で推移しています。



【副問6-1 「ある」と回答した人にお尋ねします。どのようなことで人権が侵害されたと思いましたか。】※自分の人権が侵害されたと思ったことがある人への設問

「根拠のない悪い噂、他人からの悪口、かげ口」が最も多く、次いで「仲間はずれ、嫌がらせ」、「職場における不当な待遇」の順となっています。「仲間はずれ、嫌がらせ」と「職場における不当な待遇」は、前々回、前回、今回と一貫して上昇しており、どちらも前々回に比べると10ポイント程度高くなっています。一方「他人に知られたくない個人的事項を知られること(プライバシーの侵害)」は前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。



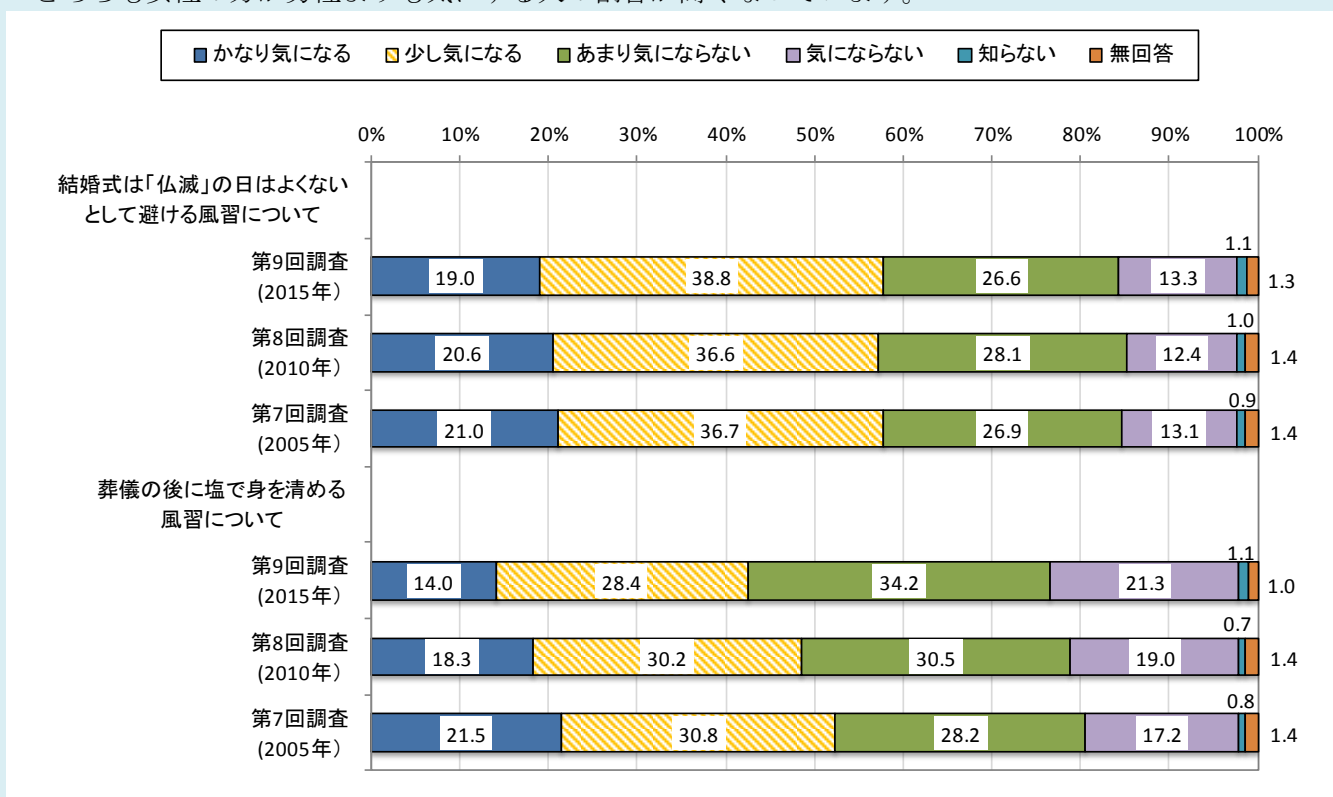
2 日本の風習などについて

【問7-1 結婚式は「仏滅」の日はよくないとして避ける、葬儀の後に塩で身を清めるという風習（ならわし）についてあなたは気になりますか。】

「結婚式は「仏滅」の日はよくないとして避ける」では、「かなり気になる」の割合が前々回、前回、今回と回を追うごとに若干低下しています。しかしながら、気になる（「かなり気になる」＋「少し気になる」）の割合は依然と5割以上を占めています。

「葬儀の後に塩で身を清める」では、気になる（「かなり気になる」＋「少し気になる」）の割合が前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。前々回と今回を比べると、10ポイント程度下がっています。

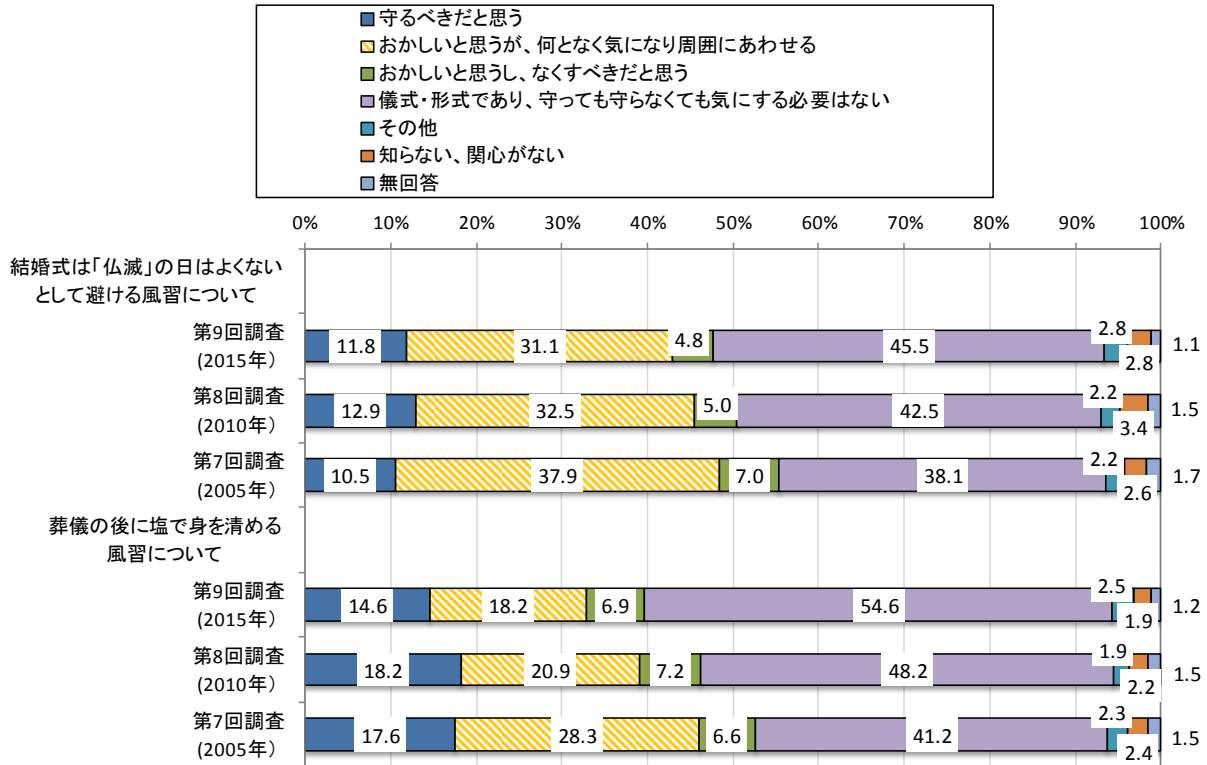
性別でみると、「結婚式は「仏滅」の日はよくないとして避ける」と「葬儀の後に塩で身を清める」のどちらも女性の方が男性よりも気にする人の割合が高くなっています。



【問7-2 結婚式は「仏滅」の日はよくないとして避ける、葬儀の後に塩で身を清めるという風習（ならわし）についてあなたはどう思いますか。】

守るべきという強いこだわりを持つ人の割合は、「結婚式は「仏滅」の日はよくないとして避ける」が11.8%、「葬儀の後に塩で身を清める」が14.6%で、両者とも最も多いのは「儀式・形式であり、守っても守らなくても気にする必要はない」です。「結婚式は「仏滅」の日はよくないとして避ける」について肯定的な回答である「守るべきだと思う」、「おかしいと思うが、何となく気になり周囲にあわせる」を合わせた割合では、前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。

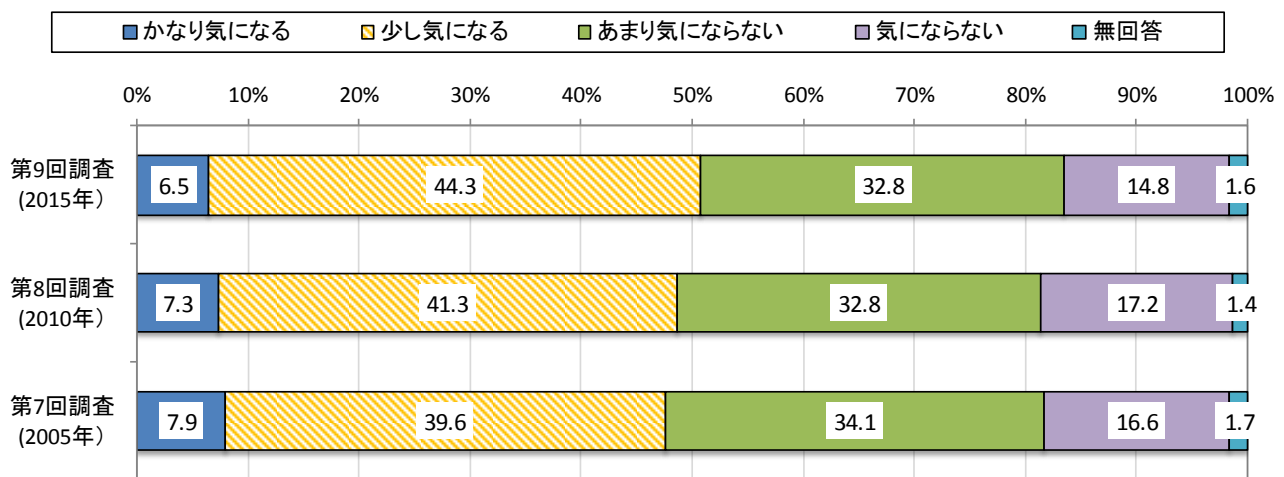
「葬儀の後に塩で身を清める」についても「結婚式は「仏滅」の日はよくないとして避ける」と同じく、肯定的な回答である「守るべきだと思う」、「おかしいと思うが、何となく気になり周囲にあわせる」を合わせた割合では、前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。



【問7-3 結婚相手を決めるときに家柄を気にしますか。】

結婚相手の家柄が気になる人（かなり気になる＋少し気になる）は50.8%、気にならない人（あまり気にならない＋気にならない）は47.6%で、結婚相手の家柄が気になる人と気にならない人がほぼ拮抗しています。

家柄が気になる人（「かなり気になる」＋「少し気になる」）の割合は、前々回、前回、今回と回を追うごとにやや上昇傾向にあります。



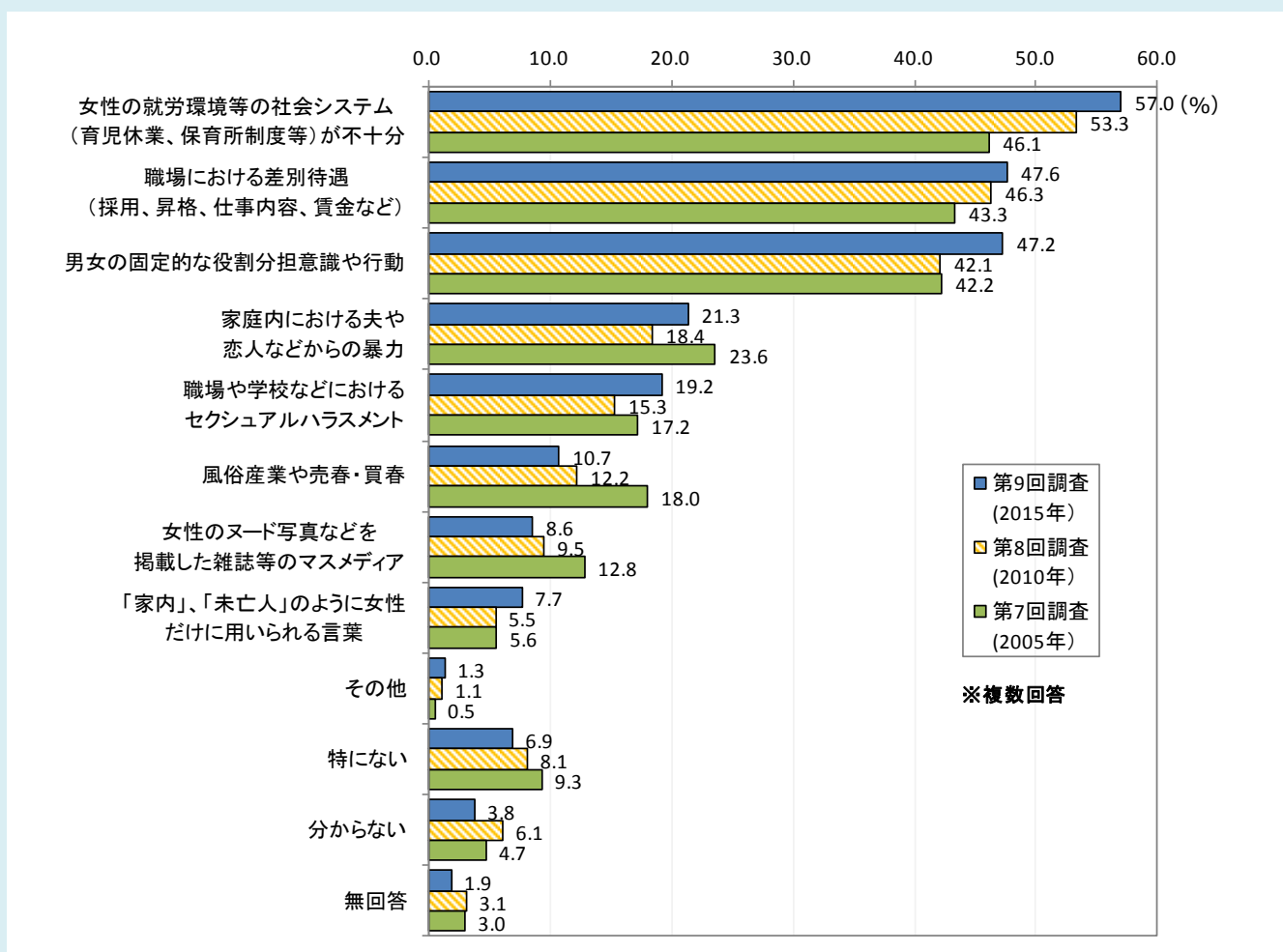
3 女性の人権について

【問8 女性の人権に関する事柄で、女性の人権が尊重されていないと思うのはどのようなことですか。】

今回「女性の就労環境等社会システムが不十分」が最も高く、前々回、前回から回を追うごとに上昇しています。「職場における差別待遇（採用、昇格、仕事内容、賃金など）」も同じく前々回、前回、今回と回を追うごとに若干上昇しています。

一方「風俗産業や売春・買春」と「女性のヌード写真などを掲載した雑誌等のマスメディア」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。

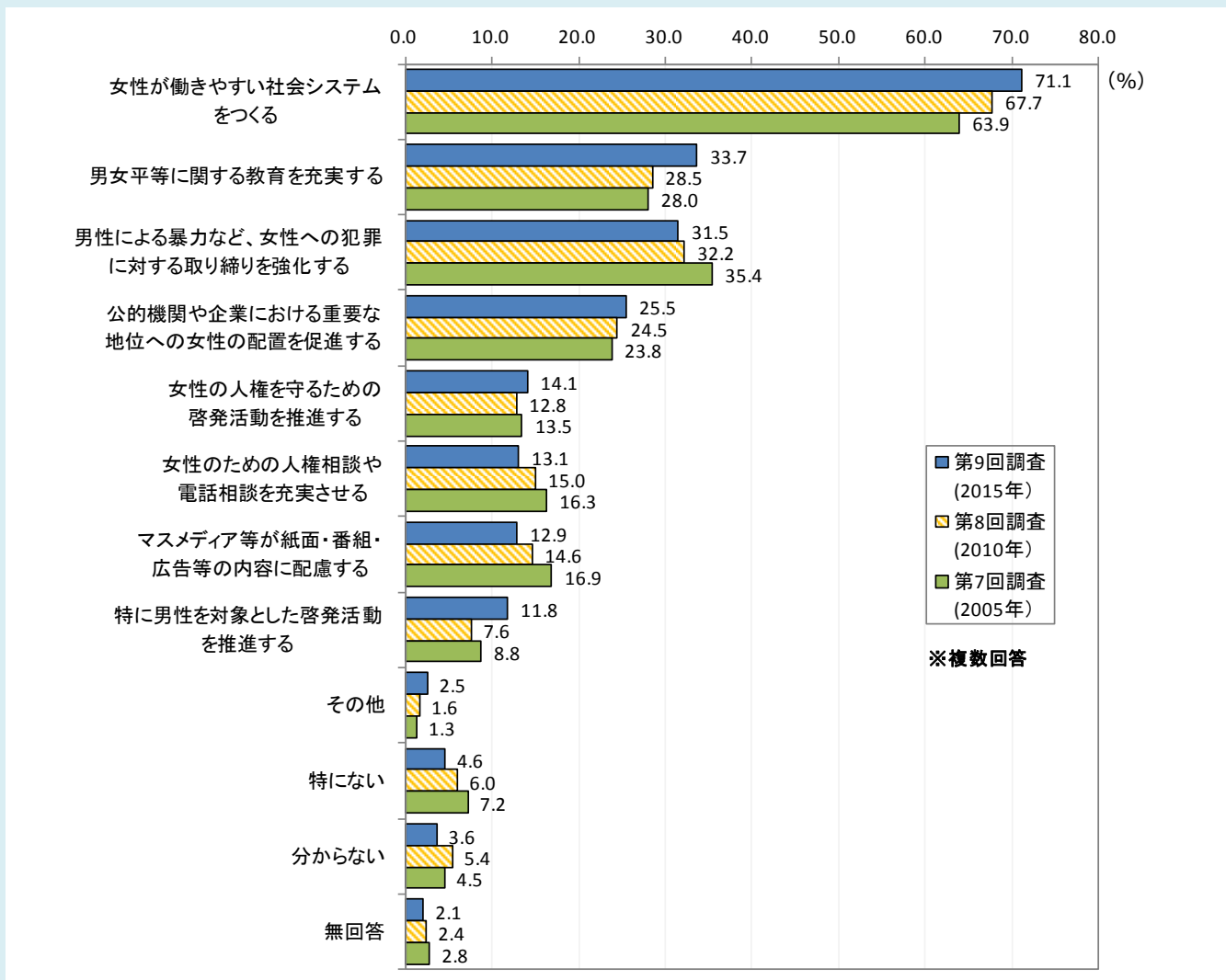
性別でみると、「男女の固定的な役割分担意識や行動」は、女性の方が男性よりも気にする人の割合が高くなっています。



【問9 女性の人権を守るために、必要なことはどのようなことだと思いますか。】

前々回、前回、今回の3回とも「女性が働きやすい社会システムをつくる」が最も高く、また回を追うごとに上昇しています。「男女平等に関する教育を充実する」と「公的機関や企業における重要な地位への女性の配置を促進する」も同じく若干ではありますが、前々回、前回、今回と回を追うごとに上昇しています。

一方「男性による暴力など、女性への犯罪に対する取り締りを強化する」、「女性のための人権相談や電話相談を充実させる」、「マスメディア等が紙面・番組・広告等の内容に配慮する」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。



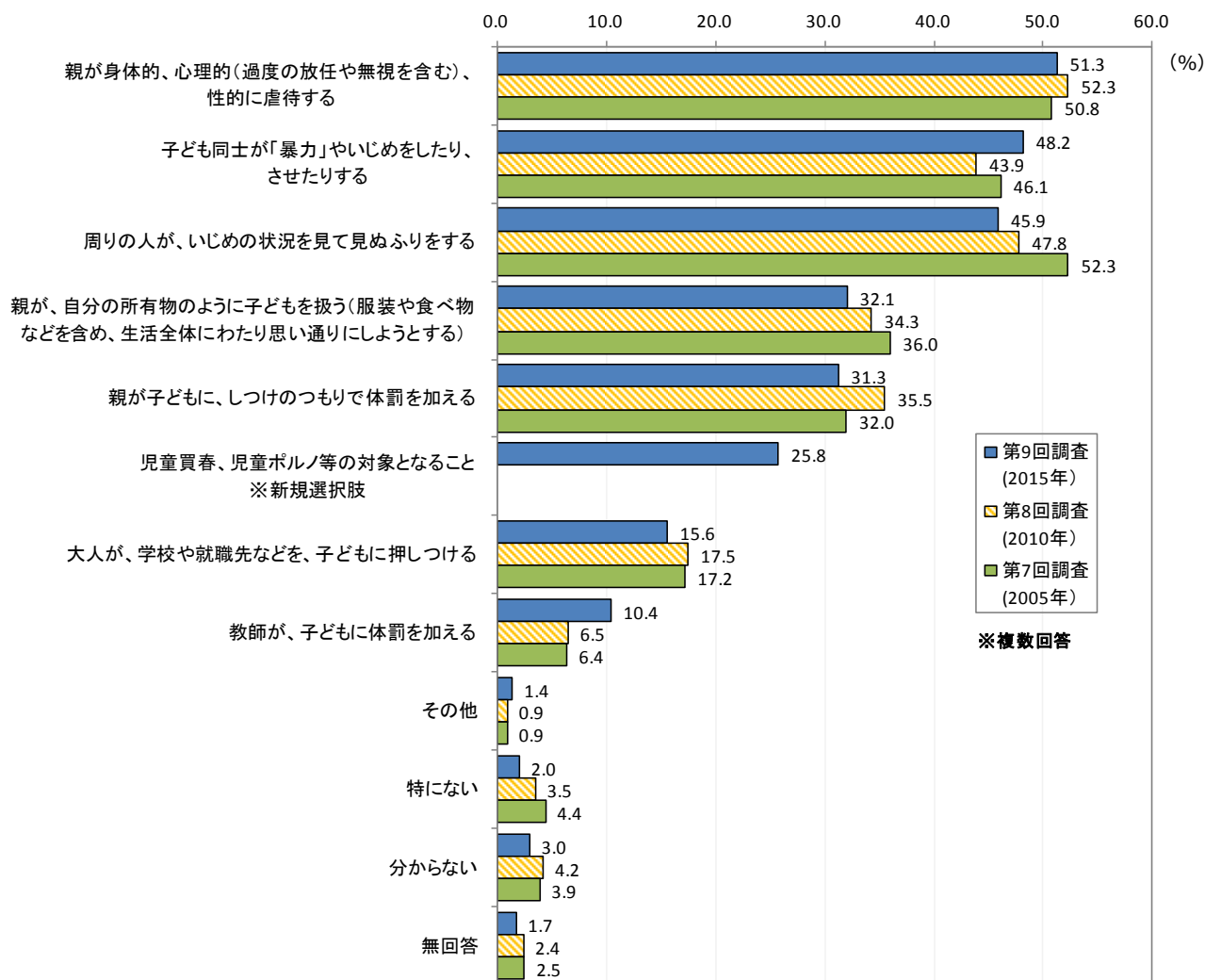
4 子どもの人権について

【問10 子どもの人権に関する事柄で、人権が尊重されていないと思われるのはどのようなことですか。】

「親が身体的、心理的（過度の放任や無視を含む）、性的に虐待する」が最も多く、次いで「子ども同士が暴力やいじめをしたり、させたりする」、「周りの人が、いじめの状況を見て見ぬふりをする」の順となっています。「子ども同士が暴力やいじめをしたり、させたりする」と「教師が、子どもに体罰を加える」は前回に比べて高くなっています。

一方「周りの人が、いじめの状況を見て見ぬふりをする」と「親が、自分の所有物のように子どもを扱う」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。

性別でみると、「親が身体的、心理的（過度の放任や無視を含む）、性的に虐待する」、「親が、自分の所有物のように子どもを扱う」、「児童買春、児童ポルノ等の対象となること」は、女性の方が男性よりも若干割合が高くなっています。

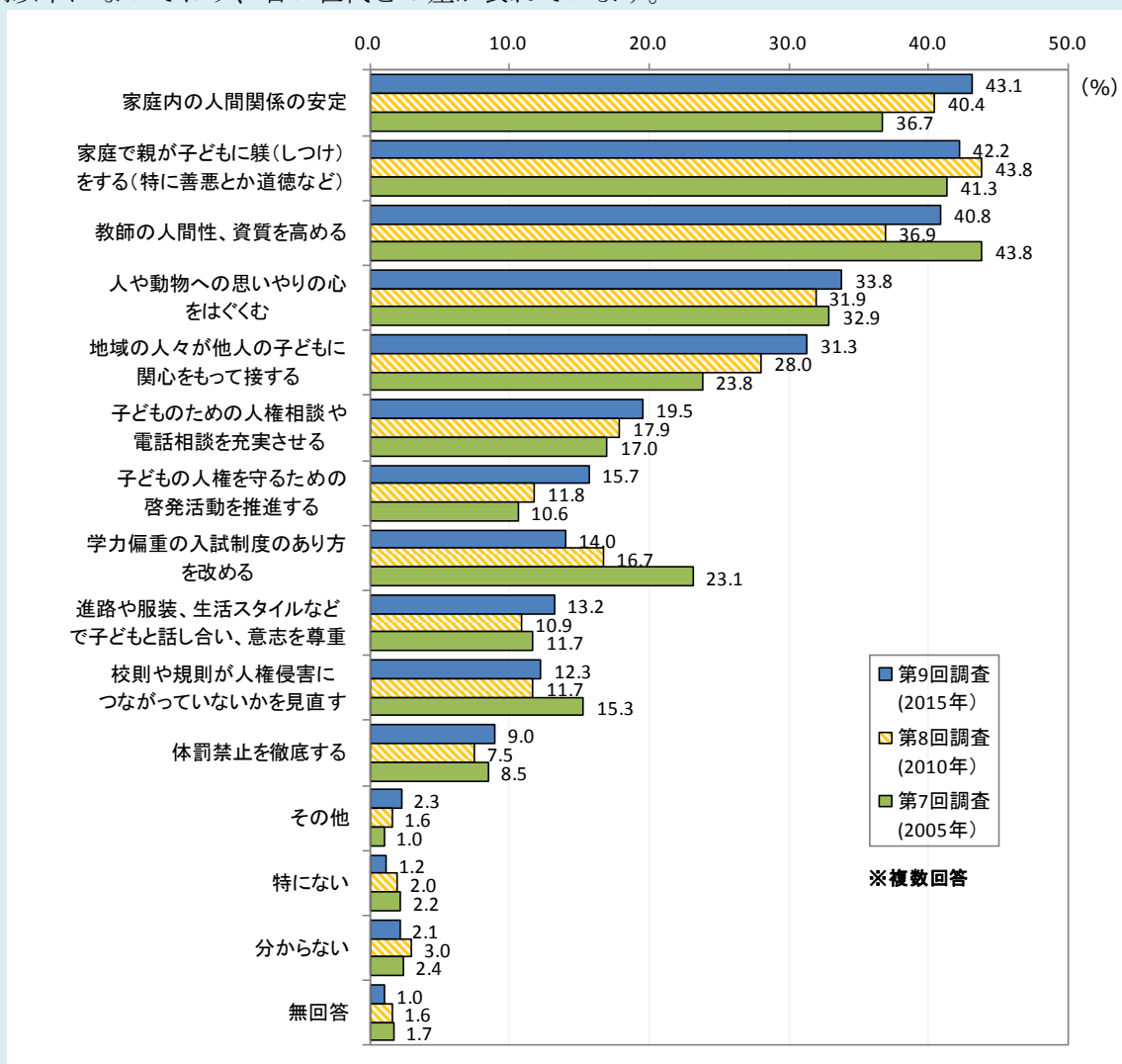


【問11 子どもの人権を守るために、必要なことはどのようなことだと思いますか。】

「家庭内の人間関係の安定」が最も高く、次いで「家庭で親が子どもに躰（しつけ）をする」、「教師の人間性、資質を高める」の順となっています。「家庭内の人間関係の安定」が前々回、前回、今回と回を追うごとに高くなっています。「地域の人々が他人の子どもに関心をもって接する」、「子どものための人権相談や電話相談を充実させる」、「子どもの人権を守るための啓発活動を推進する」も同じく前々回、前回、今回と回を追うごとに上昇しています。

一方「学力偏重の入試制度のあり方を改める」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。

年代別でみると、「家庭内の人間関係の安定」は、20代～40代が5割を超えていますが、60歳以上では4割以下になっており、若い世代との差が表れています。

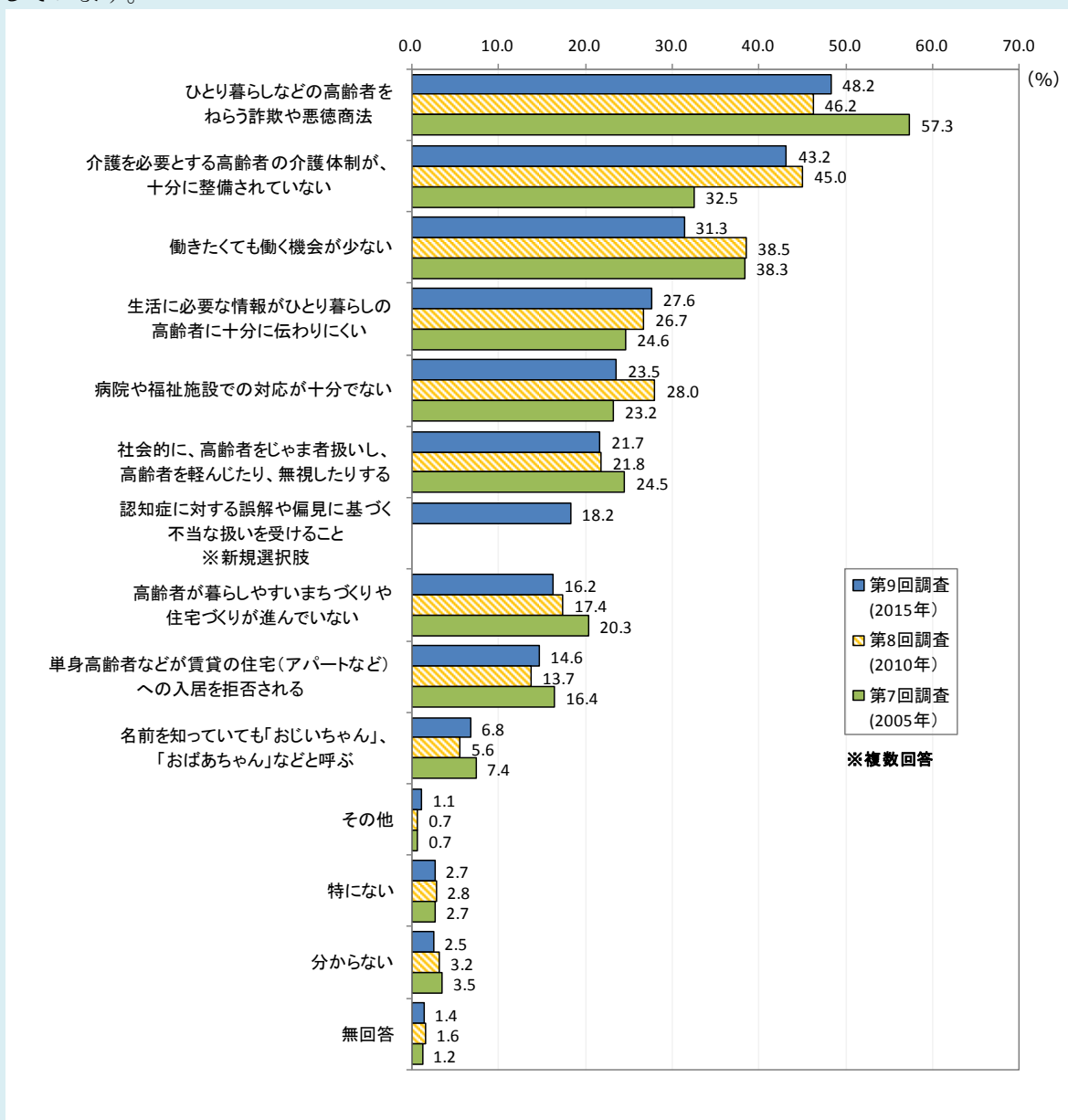


5 高齢者の人権について

【問12 高齢者の人権に関する事柄で、人権が尊重されていないと思われるのはどのようなことですか。】

「ひとり暮らしなどの高齢者をねらう詐欺や悪徳商法」が最も多く、次いで「介護を必要とする高齢者の介護体制が、十分に整備されていない」、「働きたくても働く機会が少ない」の順となっています。「ひとり暮らしなどの高齢者をねらう詐欺や悪徳商法」が前々回、前回、今回の3回とも最も割合が高くなっています。「生活に必要な情報がひとり暮らしの高齢者に十分に伝わりにくい」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに若干上昇しています。

一方「社会的に、高齢者をじゃま者扱いし、高齢者を軽んじたり、無視したりする」と「高齢者が暮らしやすいまちづくりや住宅づくりが進んでいない」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。



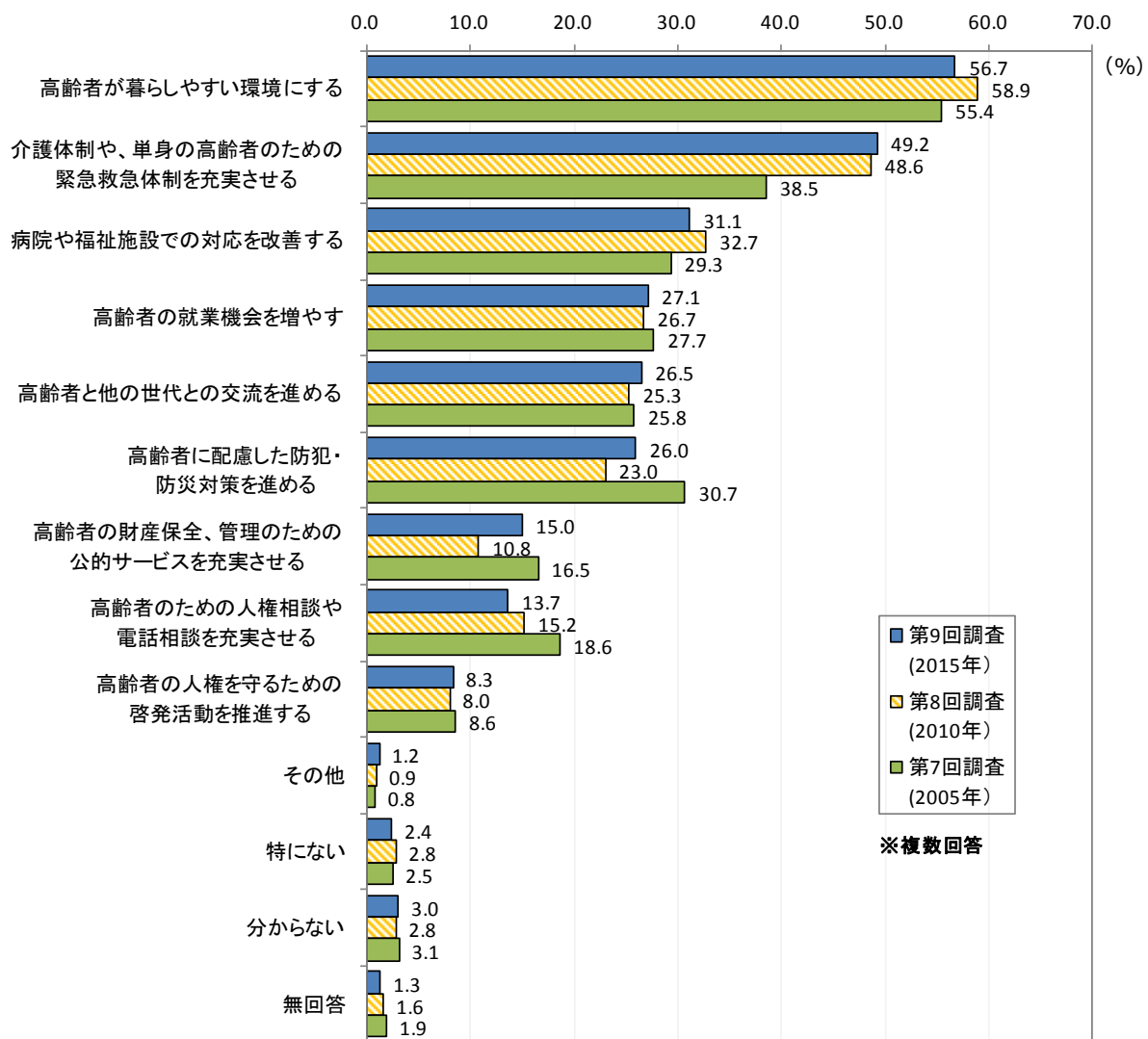
【問13 高齢者の人権を守るために、必要なことはどのようなことだと思われますか。】

「高齢者が暮らしやすい環境にする」が前々回、前回、今回の3回とも最も割合が高くなっています。「介護体制や、単身の高齢者のための緊急救急体制を充実させる」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに上昇しています。

一方「高齢者のための人権相談や電話相談を充実させる」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。

「高齢者に配慮した防犯・防災対策を進める」と「高齢者の財産保全、管理のための公的サービスを充実させる」は、前は前々回から下がっていましたが、今回は前回に比べて高くなっています。

性別に見ると、「介護体制や、単身の高齢者のための緊急救急体制を充実させる」は、女性の方が男性よりも高い結果となっています。



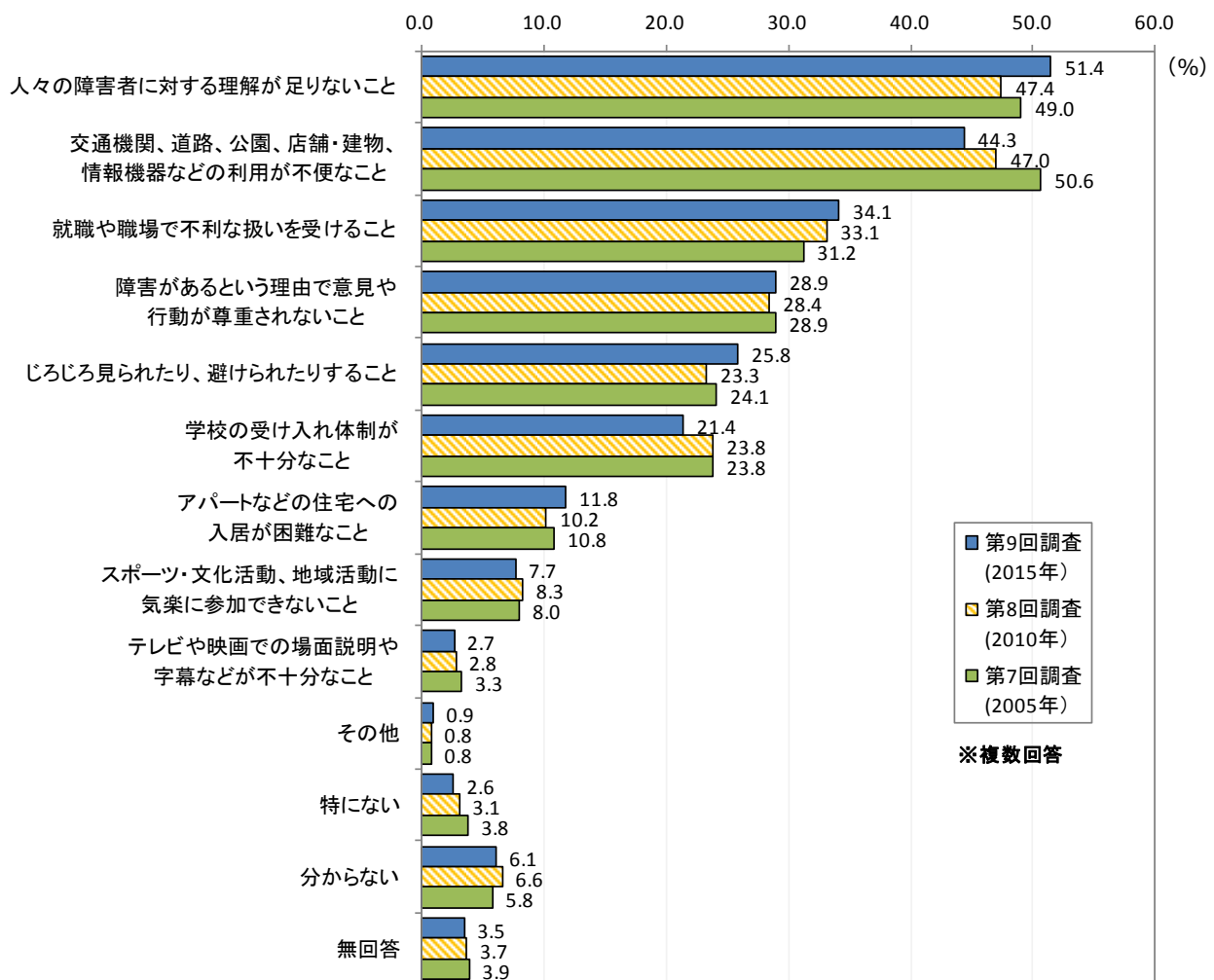
6 障害のある人の人権について

【問 14 障害のある人の人権に関する事柄で、人権が尊重されていないと思われるのはどのようなことですか。】

「人々の障害者に対する理解が足りないこと」が最も割合が高くなっており、前回に比べて若干高くなっています。「就職や職場で不利な扱いを受けること」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに上昇しています。

一方「交通機関、道路、公園、店舗・建物、情報機器などの利用が不便なこと」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。

年代別に見ると、「就職や職場で不利な扱いを受けること」、「障害があるという理由で意見や行動が尊重されないこと」は、20代が他の年代に比べ高い傾向がみられます。

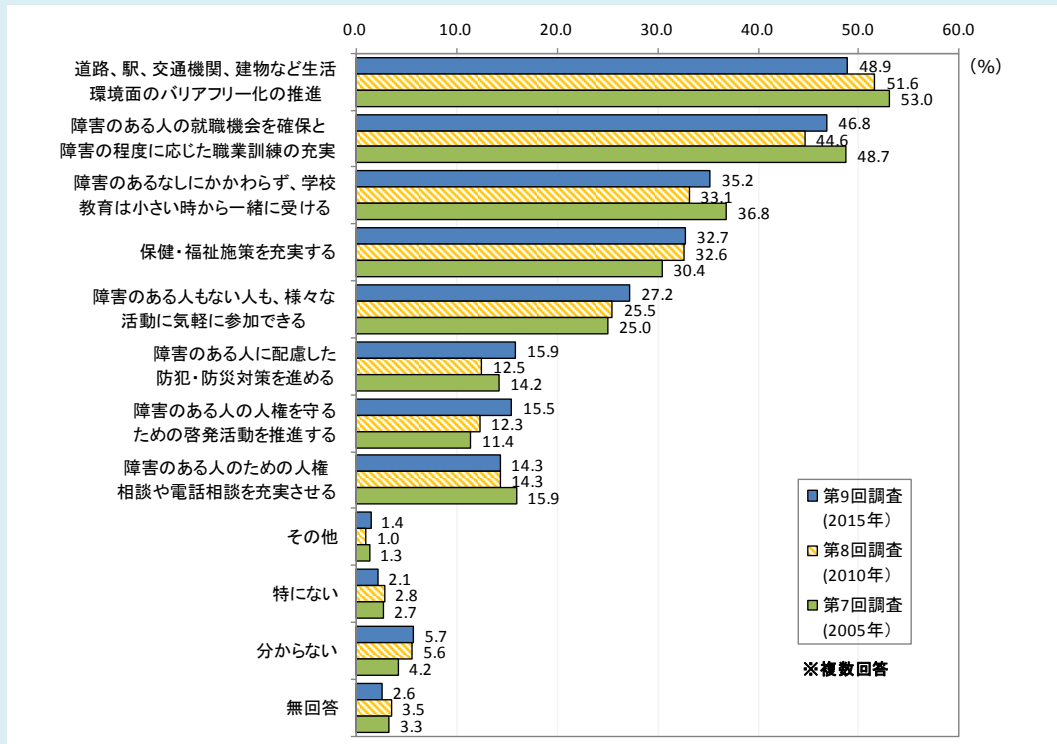


【問 15 障害のある人の人権を守るために、必要なことはどのようなことだと思われますか。】

「道路、駅、交通機関、建物など生活環境面のバリアフリー化の推進」が最も割合が高くなっていますが、前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。

一方「保健・福祉施策を充実する」と「障害のある人もない人も、様々な活動に気軽に参加できる」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに若干上昇しています。

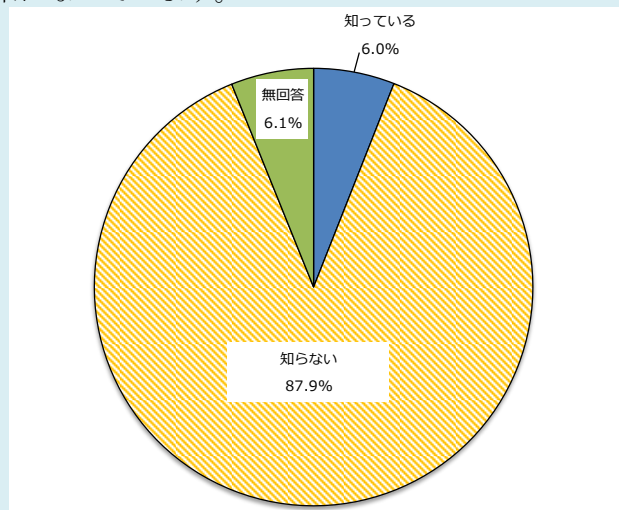
性別でみると、「障害のある人の人権を守るための啓発活動を推進する」は、男性の方が女性よりも割合が高くなっています。



【問 16 障害者差別解消法が平成28年4月から始まることをご存知ですか。】

※新規設問

「知っている」が6.0%、「知らない」が87.9%と現状では8割以上の方が「障害者差別解消法」のことを認知していないという結果になっています。

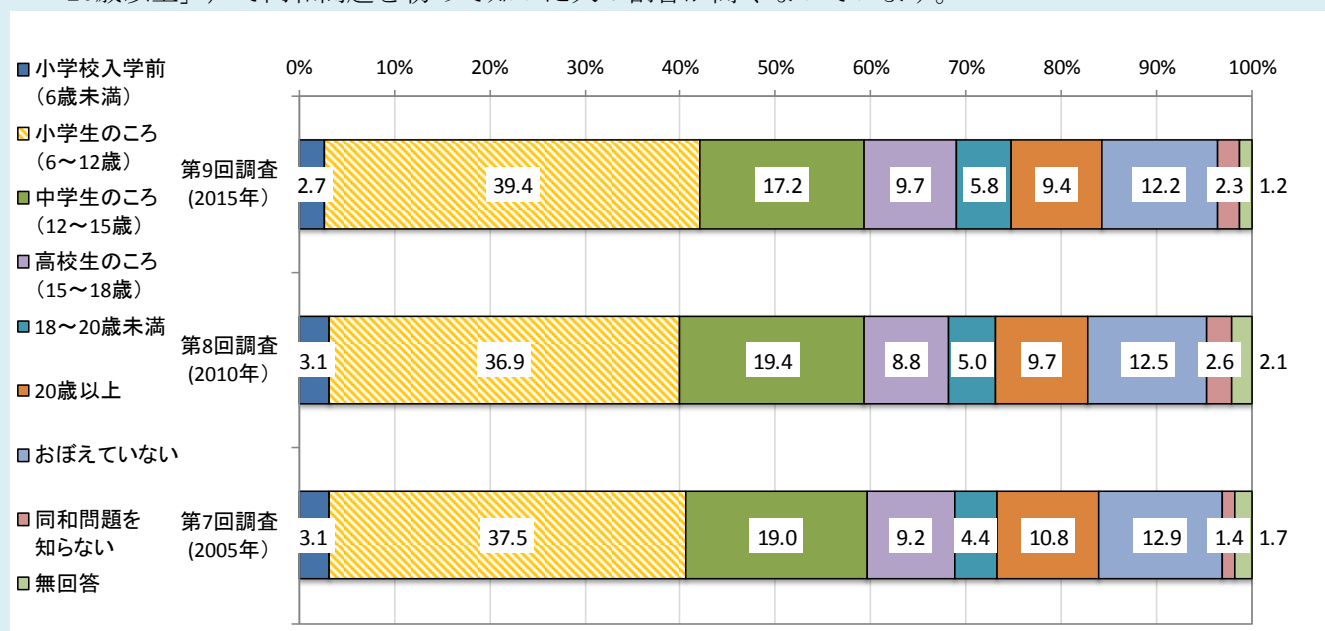


7 同和問題について

【問 17 あなたが、同和問題を初めて知ったのは、いつごろですか。】

前々回、前回、今回の3回とも「小学生のころ（6～12歳）」が最も高くなっています。また今回調査は「中学生のころ（12～15歳）」が前々回、前回に比べて2ポイント程度低下しています。

年代別で見ると、「小学生のころ（6～12歳）」は30代～50代前半の割合が高く、一方55歳以上では12歳以上（「中学生のころ（12～15歳）」、「高校生のころ（15～18歳）」、「18～20歳未満」、「20歳以上」）で同和問題を初めて知った人の割合が高くなっています。



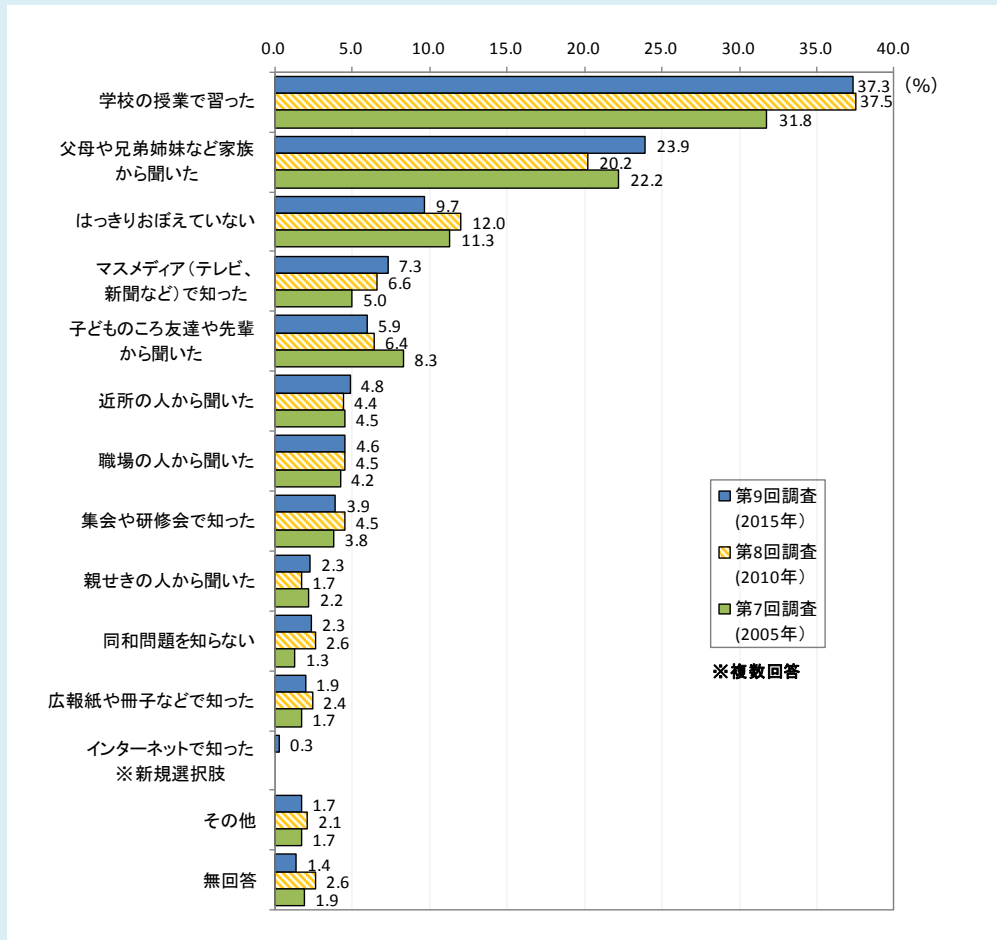
【問 18 あなたが、同和問題を初めて知ったのは、どのようなことからですか。】

「学校の授業で習った」が前々回、前回、今回と3回とも最も高くなっています。「マスメディア（テレビ、新聞など）で知った」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに若干上昇しています。

一方「子どものころ友達や先輩から聞いた」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに若干低下しています。

性別に見ると、「学校の授業で習った」は女性が男性よりも高くなっています。

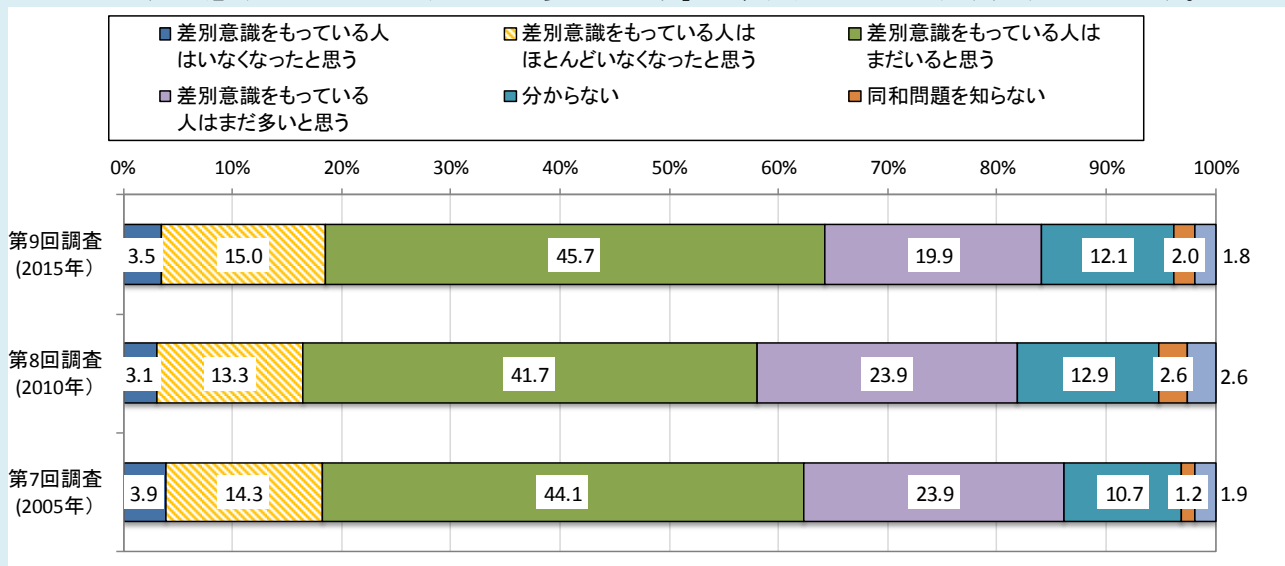
年代別に見ると、55歳未満の5割以上が「学校の授業で習った」をあげています。55歳以上では「学校で習った」の割合が低くなっており、一方「父母や兄弟姉妹など家族から聞いた」の割合が高くなっています。



【問 19 同和地区の人を嫌がったり、避けたりするような意識はまだあると思いますか。】

「差別意識をもっている人はいなくなったと思う」と「差別意識をもっている人はほとんどいなくなったと思う」が前回に比べて若干高くなっています。

一方「差別意識をもっている人はまだ多いと思う」は、前回に比べて若干低下しています。



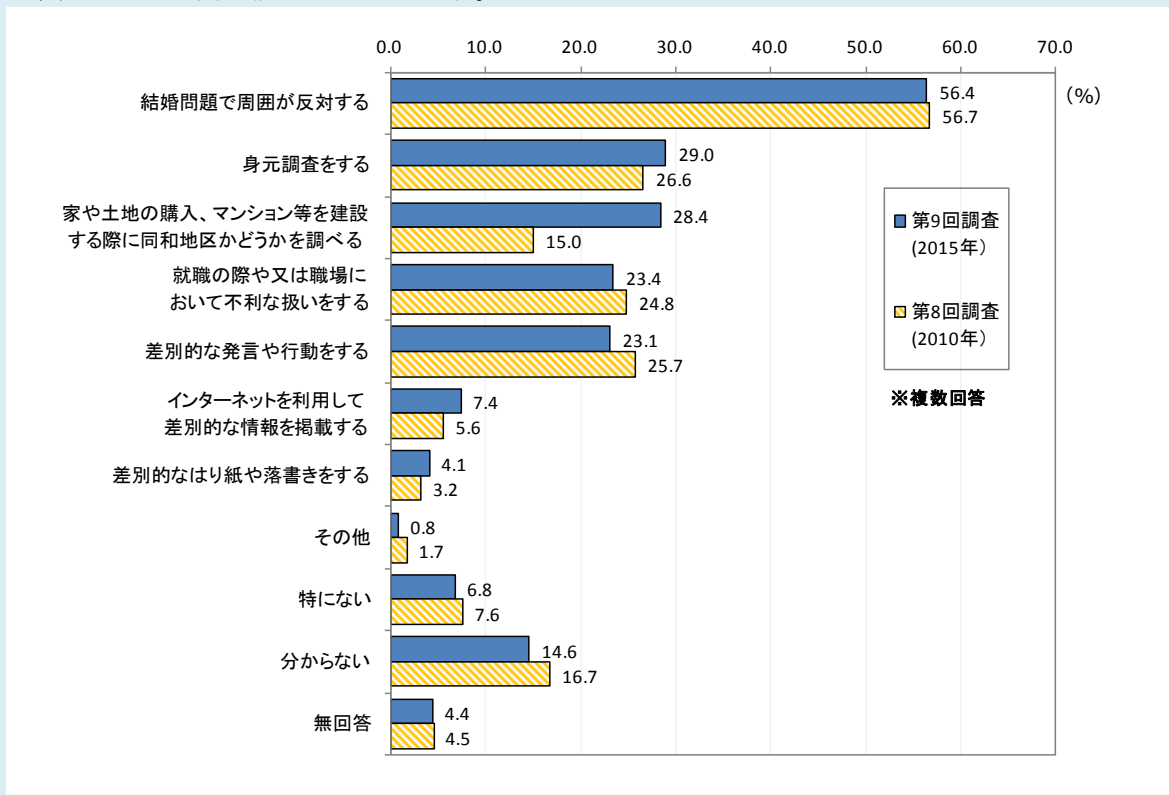
【問 20 同和問題に関する事柄で、人権が尊重されていないと思われるのはどのようなことですか。】

※第 8 回からの設問

「結婚問題で周囲が反対する」が最も多く、次いで「身元調査をする」、「家や土地の購入、マンション等を建設する際に同和地区かどうかを調べる」の順となっています。「身元調査をする」、「家や土地の購入、マンション等を建設する際に同和地区かどうかを調べる」、「インターネットを利用して差別的な情報を掲載する」は、前回に比べて高くなっています。

一方「就職の際や又は職場において不利な扱いをする」と「差別的な発言や行動をする」は、前回に比べて若干低下しています。

年代別でみると、「差別的な発言や行動をする」は、20代後半～40代前半までが3割を超えており、他の年代に比べて高い傾向がみられます。



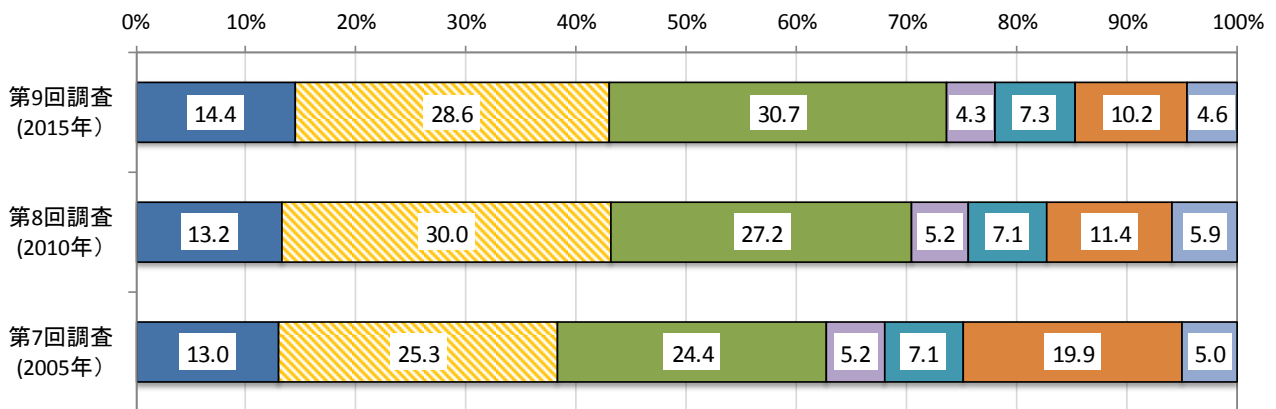
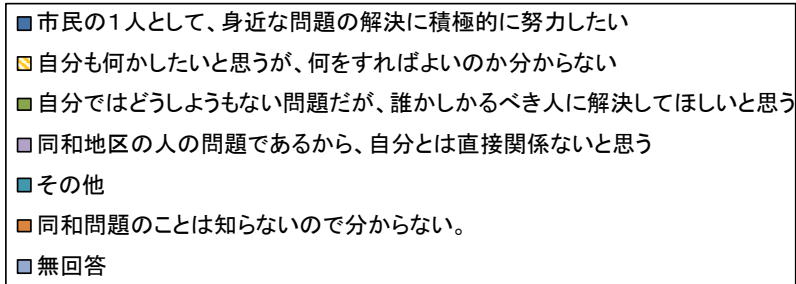
※前回第8回調査の一部表現変更あり

「家や土地の購入、マンション等を建設する際に同和地区かどうかを調べる」については、前回は「マンション等を建設する際に同和地区かどうかを調べる」となっています。

【問 21 同和問題の解決に対するあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。】

「市民の1人として、身近な問題の解決に積極的に努力したいと思う」が14.4%、「自分も何かしたいと思うが、何をすればよいのか分からない」が28.6%となっています。「市民の1人として、身近な問題の解決に積極的に努力したいと思う」が前々回、前回、今回と回を追うごとに若干上昇しています。同じく「自分ではどうしようもない問題だが、誰かしかるべき人に解決してほしいと思う」でも、前々回、前回、今回と回を追うごとに上昇しています。

年代別でみると、「市民の1人として、身近な問題の解決に積極的に努力したい」は、若い世代(20代～30代)の割合が低く、50歳以上では割合が高い結果となっています。

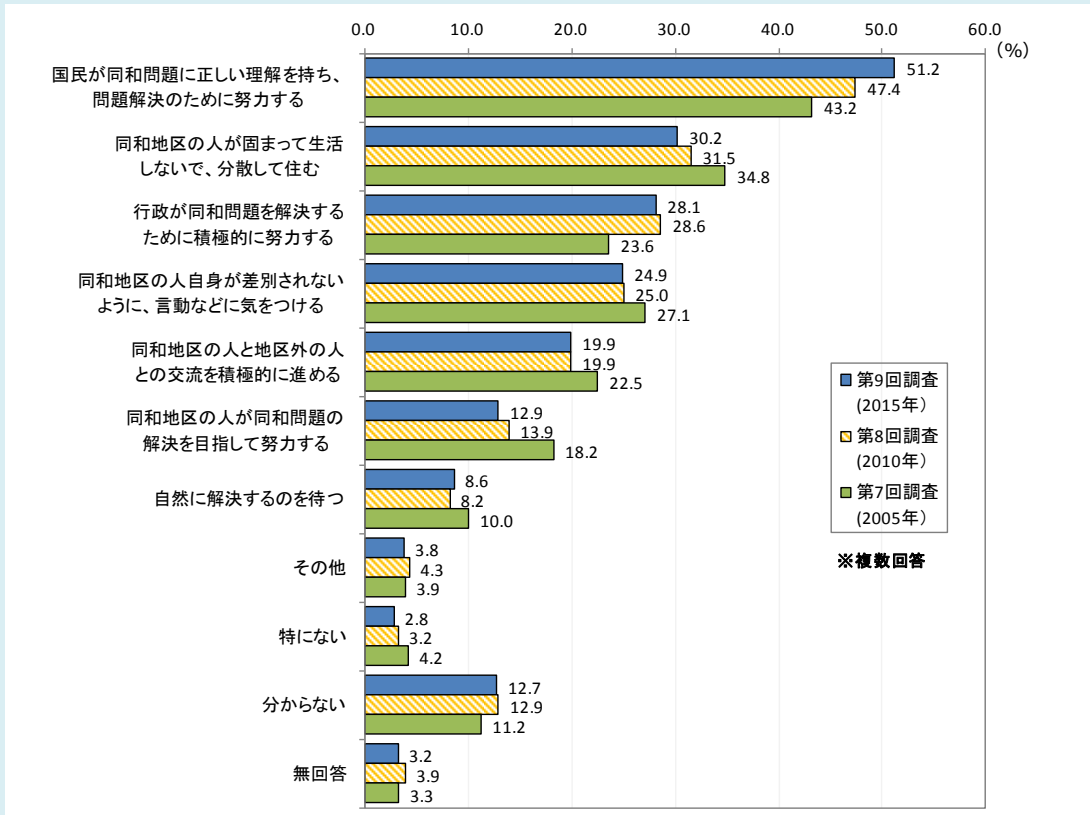


【問 22 同和問題を解決するためには、大切なのはどのようなことだと思われますか。】

「国民が同和問題に正しい理解を持ち、問題解決のために努力する」が最も多く、次いで「同和地区の人が固まって生活しないで、分散して住む」、「行政が同和問題を解決するために積極的に努力する」の順となっています。

「国民が同和問題に正しい理解を持ち、問題解決のために努力する」が前々回、前回、今回と回を追うごとに上昇しています。一方「同和地区の人が固まって生活しないで、分散して住む」と「同和地区の人が同和問題の解決を目指して努力する」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。

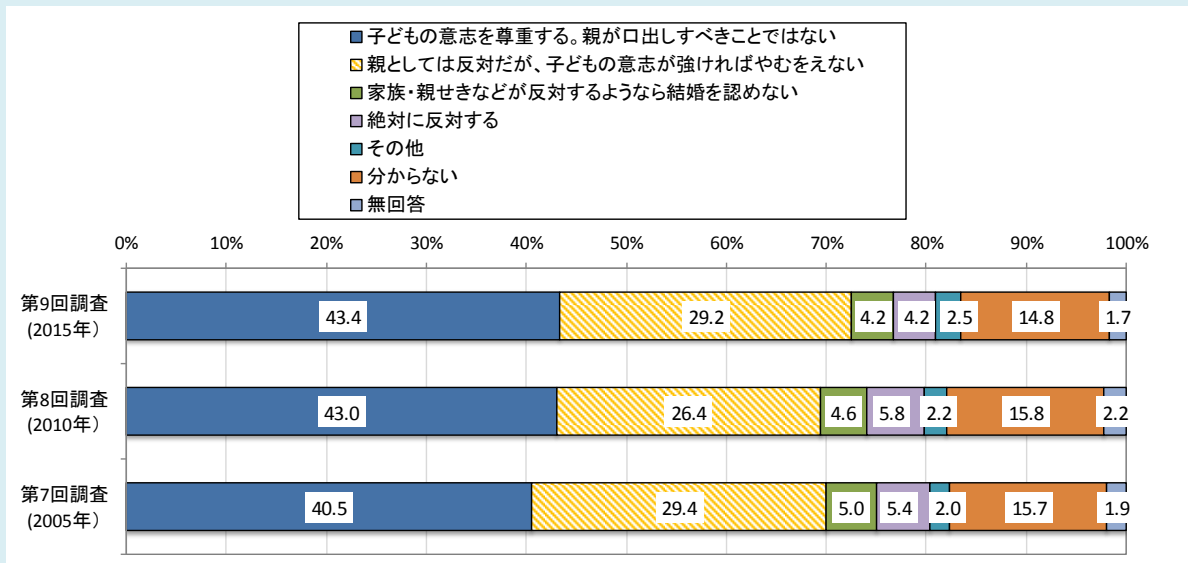
性別でみると、「行政が同和問題を解決するために積極的に努力する」、「同和地区の人と地区外の人との交流を積極的に進める」は、男性の方が女性よりも若干割合が高くなっています。



【問 23-1 仮に、あなたのお子さんが結婚しようとする相手が、同和地区の人であると分かった場合、あなたはどのようにお考えですか。】

「子どもの意志を尊重する。親が口出しすべきことではない」が最も高く、前回調査からほとんど変わらず横ばいです。「親としては反対だが、子どもの意志が強ければやむをえない」は、今回が29.2%、前回26.4%と前回に比べて2.8ポイント高くなっています。

性別に見ると、「子どもの意志を尊重する。親が口出しすべきことではない」は、男性の方が女性よりも割合が高くなっています。

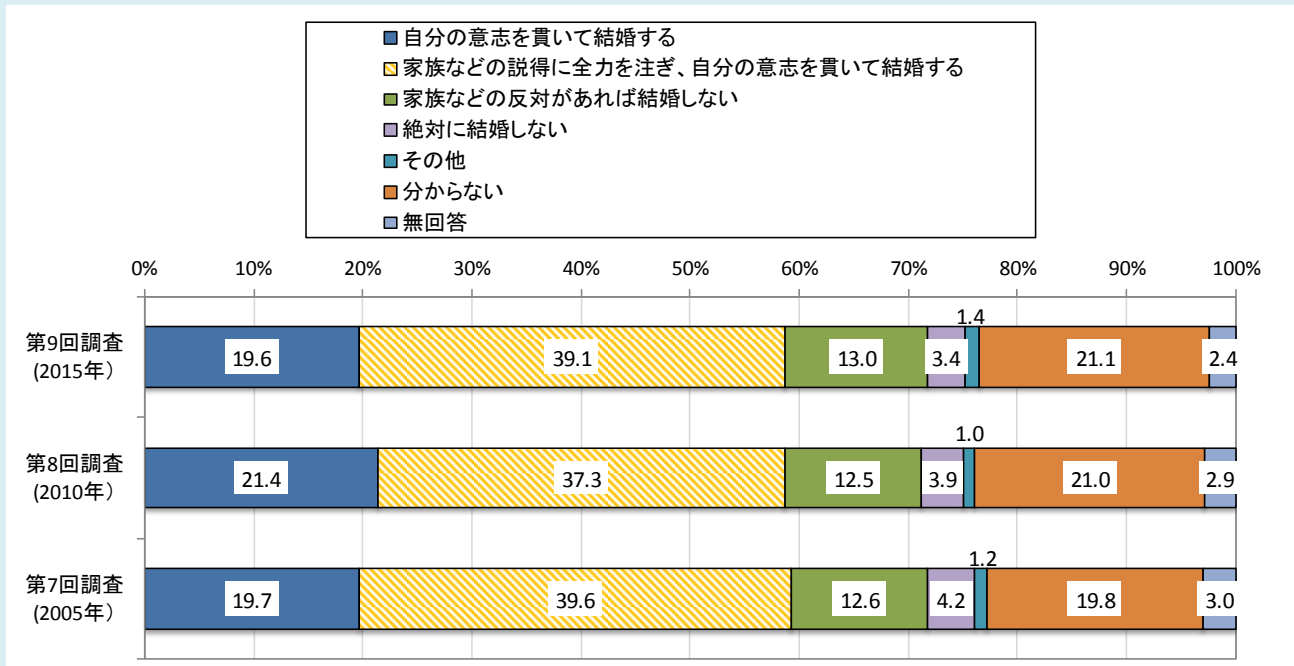


【問 23-2 仮に、あなたが同和地区の人と知り合い、結婚しようとしたとき、家族や親せきから強い反対を受けた場合、あなたはどのように思いますか。】

「自分の意志を貫いて結婚する」、「家族などの説得に全力を注ぎ、自分の意志を貫いて結婚する」という意見が全体の58.7%を占めており、前々回、前回、今回とほぼ横ばいとなっています。

前回調査と比較すると、「自分の意志を貫いて結婚する」が若干低下し、一方「家族などの説得に全力を注ぎ、自分の意志を貫いて結婚する」が若干高くなっています。

性別でみると、「自分の意志を貫いて結婚する」は、男性の方が女性よりも割合が高くなっています。

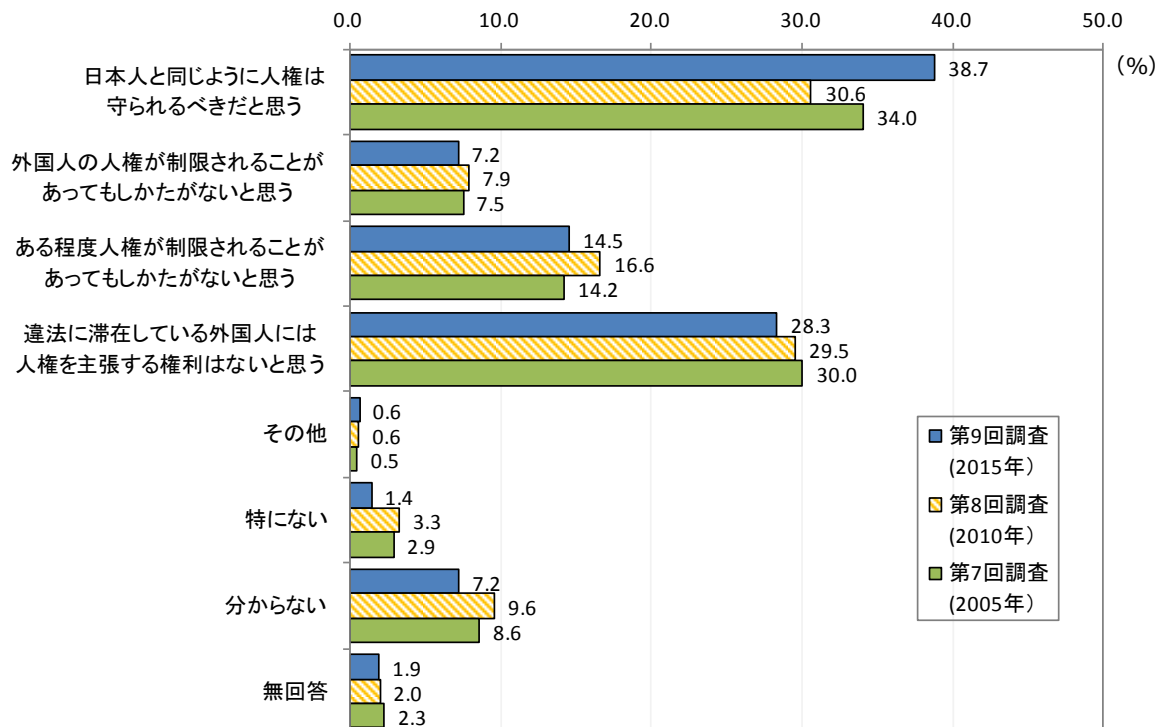


8 日本に居住する外国人の人権について

【問 24 日本に居住する外国人は、生活上のいろいろな面で差別されているといわれていますが、外国人の人権について、あなたの意見に最も近いものを次の中から1つ選んでください。】

「日本人と同じように人権は守られるべきだと思う」が最も高く、前回と比べて 8.1 ポイント高くなっています。

一方「違法に滞在している外国人には人権を主張する権利はないと思う」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに若干低下しています。

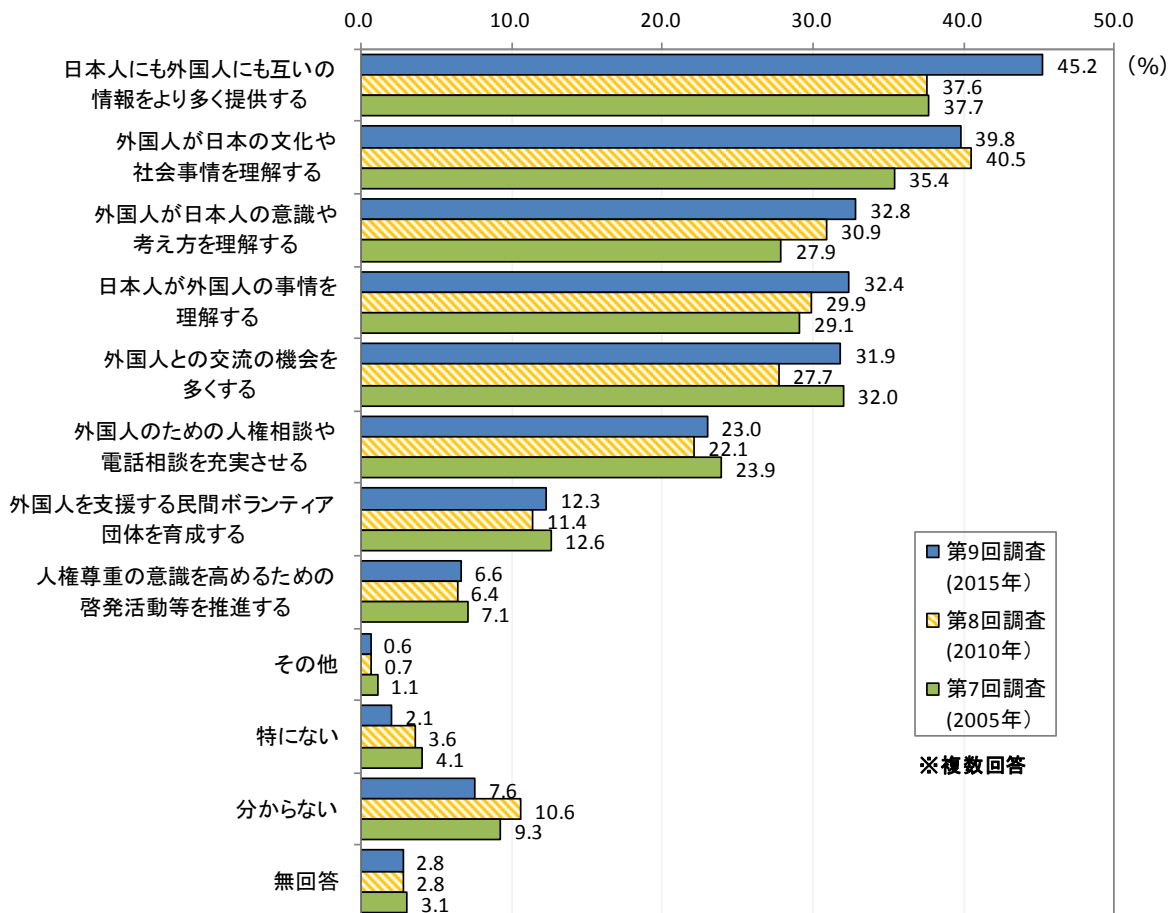


【問 25 日本に居住する外国人の人権を守るために、必要なことはどのようなことだと思われませんか。】

「日本人にも外国人にも互いの情報をより多く提供する」が最も高く、前回と比べて7.6ポイント高くなっています。

「外国人が日本人の意識や考え方を理解する」と「日本人が外国人の事情を理解する」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに上昇しています。ほとんどの項目で前回に比べて今回の方が高い結果となっています。

性別でみると、「日本人が外国人の事情を理解する」、「外国人が日本の文化や社会事情を理解する」、「外国人が日本人の意識や考え方を理解する」は男性の方が女性に比べて高く、「日本人にも外国人にも互いの情報をより多く提供する」は、女性の方が男性よりも高くなっています。



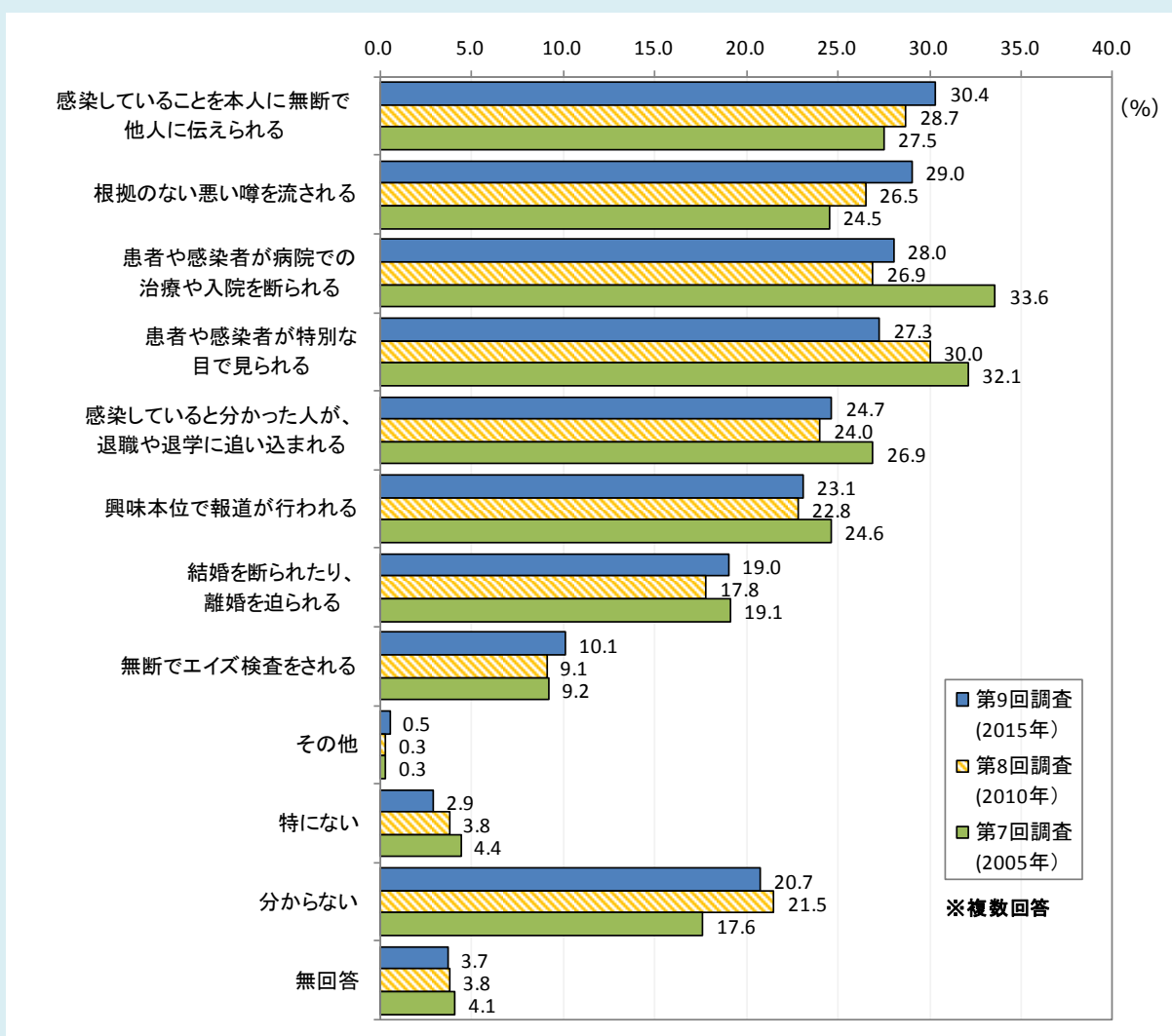
9 エイズ患者やHIV感染者の人権について

【問 26 エイズ患者・HIV感染者の人権に関する事柄で、人権が尊重されていないと思われるのはどのようなことですか。】

「感染していることを本人に無断で他人に伝えられる」が最も多く、次いで「根拠のない悪い噂を流される」、「患者や感染者が病院での治療や入院を断られる」の順となっています。「感染していることを本人に無断で他人に伝えられる」と「根拠のない悪い噂を流される」は前々回、前回、今回と回を追うごとに上昇しています。

一方「患者や感染者が特別な目で見られる」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。

性別でみると、「感染していることを本人に無断で他人に伝えられる」は、女性の方が男性よりも割合が高くなっています。



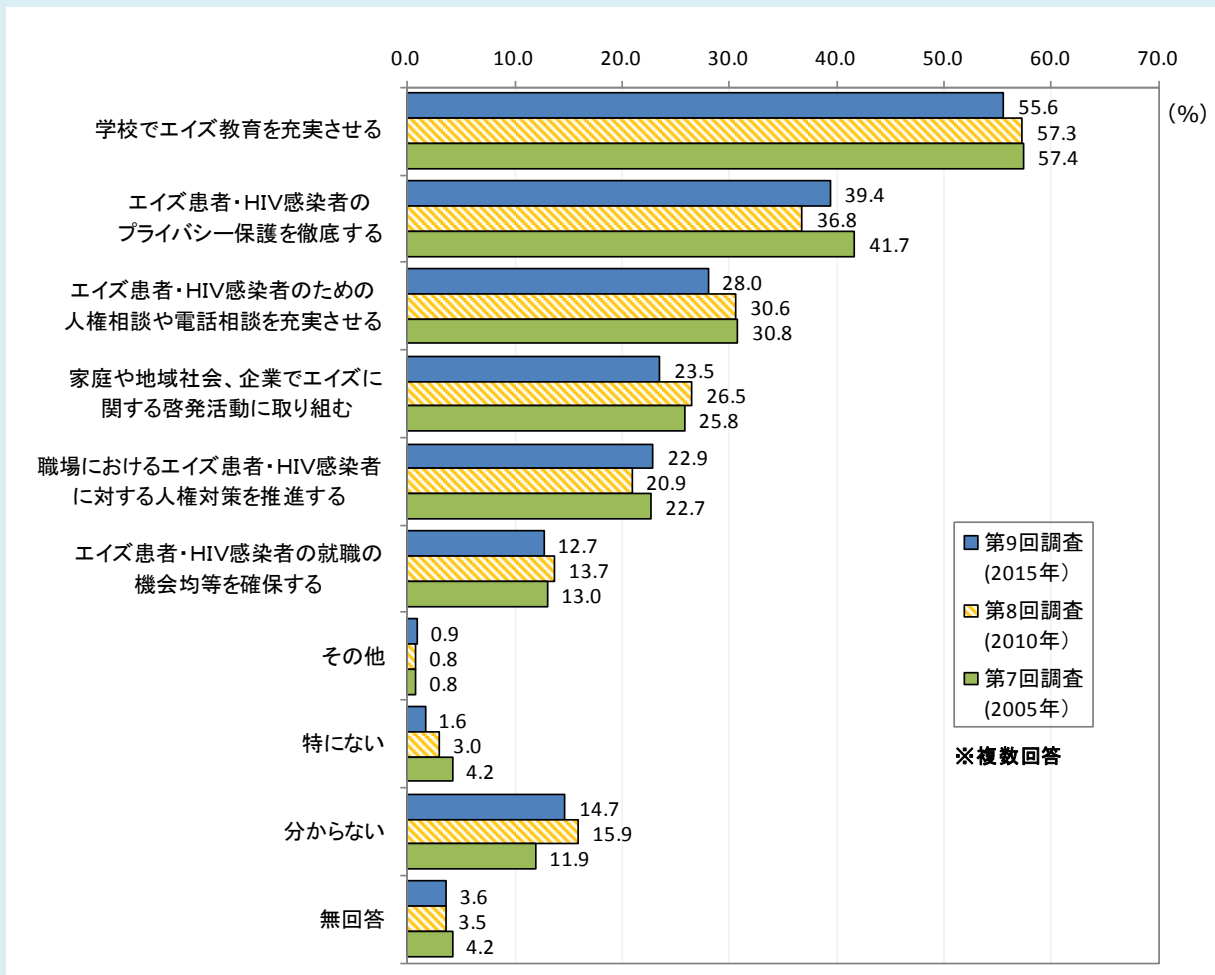
【問 27 エイズ患者・H I V感染者の人権を守るために、必要なことはどのようなことだと思いますか。】

「学校でエイズ教育を充実させる」が最も多く、次いで「エイズ患者・H I V感染者のプライバシー保護を徹底する」、「エイズ患者・H I V感染者のための人権相談や電話相談を充実させる」の順となっています。

「エイズ患者・H I V感染者のプライバシー保護を徹底する」と「職場におけるエイズ患者・H I V感染者に対する人権対策を推進する」は、前回に比べて若干高くなっています。

一方「学校でエイズ教育を充実させる」、「エイズ患者・H I V感染者のための人権相談や電話相談を充実させる」、「家庭や地域社会、企業でエイズに関する啓発活動に取り組む」は、前回に比べて若干低下しています。

性別で見ると、「職場におけるエイズ患者・H I V感染者に対する人権対策を推進する」、「家庭や地域社会、企業でエイズに関する啓発活動に取り組む」は、男性の方が女性よりも割合が高くなっています。



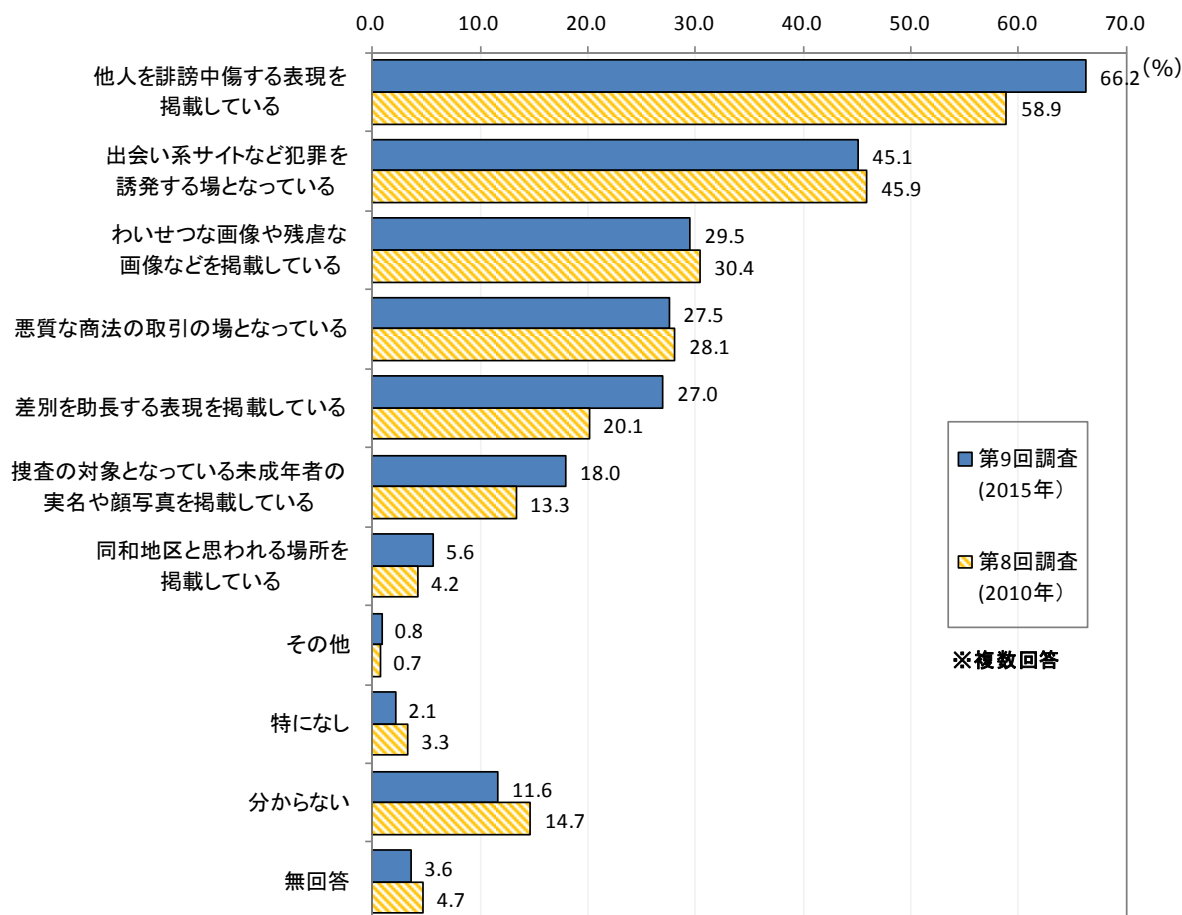
10 インターネットによる人権侵害について

【問 28 インターネットに関する事柄で、人権が尊重されていないと思われるのはどのようなことですか。】

※第8回からの設問

「他人を誹謗中傷する表現を掲載している」が最も多く、次いで「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっている」、「わいせつな画像や残虐な画像などを掲載している」の順となっています。「他人を誹謗中傷する表現を掲載している」、「差別を助長する表現を掲載している」、「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真を掲載している」は、前回に比べて高くなっています。

年代別でみると、「他人を誹謗中傷する表現を掲載している」と「差別を助長する表現を掲載している」は、20代～50代は平均を上回っていますが、60歳以上になると平均を下回っており、年齢とともに割合が低くなっている傾向がみられます。



11 社会意識・生活意識について

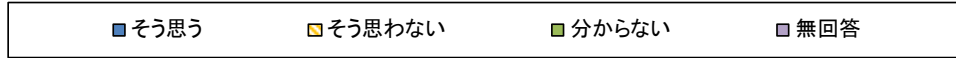
【問 29 次の (1) ~ (8) の意見について、あなたはどのように思いますか。「そう思う」「そう思わない」「わからない」から1つ選んで○をつけてください。】

- (1) 家を継ぐのは長男が望ましい
- (2) 親の老後をみるのは子どもの務めだ
- (3) 男性は仕事、女性は家事や育児の役割を担うことが好ましい
- (4) 職場の上司は男性が望ましい
- (5) どんな事情があっても教師は生徒に体罰をすべきでない
- (6) 障害のある人が普通に地域社会で生活し、仕事や社会活動、趣味を行う（参加する）のは当然だ
- (7) 家庭内で起こった、暴力や子ども虐待などは、まず家庭内で解決すべきだ
- (8) 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ

「(1)家を継ぐのは長男が望ましい」、「(3)男性は仕事、女性は家事や育児の役割を担うことが好ましい」、「(4)職場の上司は男性が望ましい」、「(7)家庭内で起こった、暴力や子ども虐待などは、まず家庭内で解決すべきだ」、「(8)女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ」は、いずれも前々回、前回、今回と回を追うごとに「そう思う」が低下しています。

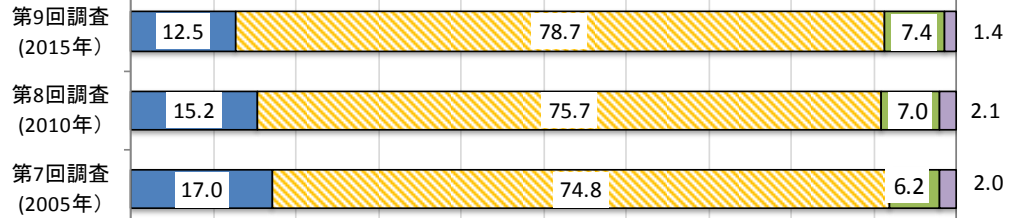
「(5)どんな事情があっても教師は生徒に体罰をすべきでない」は、「そう思う」が前々回と前回にかけて低下していましたが、今回は前回に比べて10ポイント程度高くなっています。

経年的に見て大きく変化しているのは、「(7)家庭内で起こった、暴力や子ども虐待などは、まず家庭内で解決すべきだ」と「(8)女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ」の二項目で、どちらも前々回の調査から今回の調査にかけて、「そう思う」の割合が10ポイント以上低下しています。

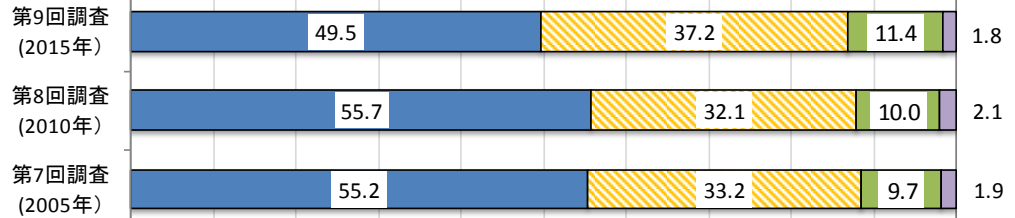


0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

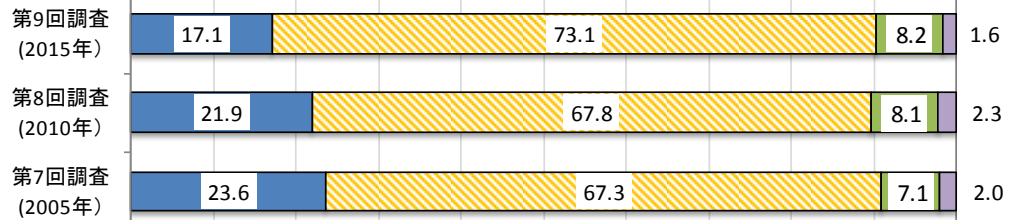
(1)家を継ぐのは長男が望ましい



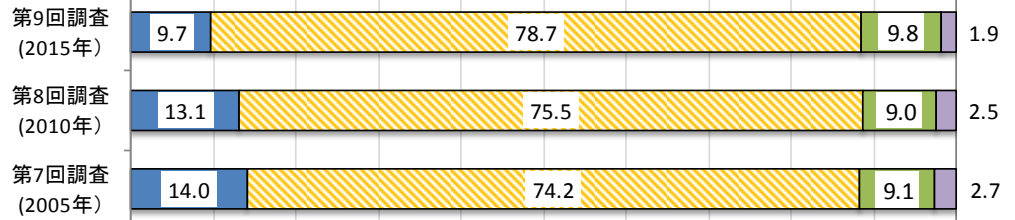
(2)親の老後をみるのは子どもの務めだ



(3)男性は仕事、女性は家事や育児の役割を担うことが好ましい



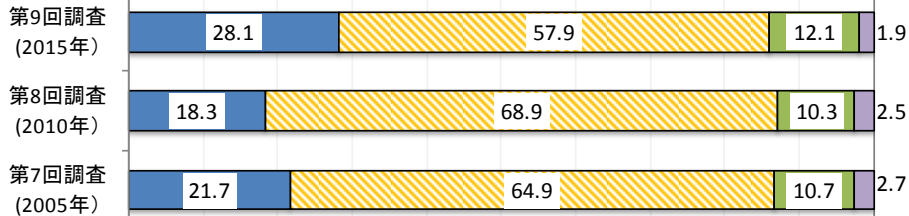
(4)職場の上司は男性が望ましい





0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

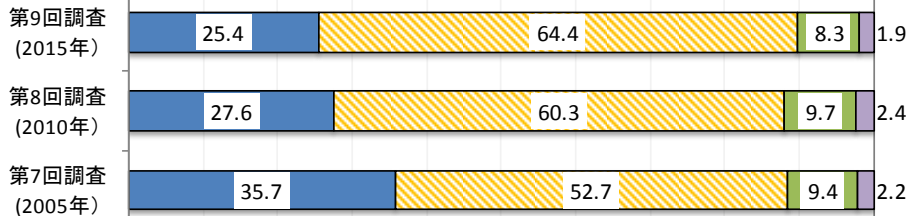
(5)どんな事情があっても教師は生徒に体罰をすべきでない



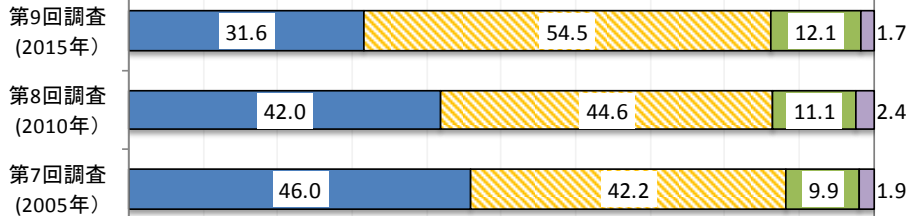
(6)障害のある人が普通に地域社会で生活し、仕事や社会活動、趣味を行う(参加する)のは当然だ



(7)家庭内で起こった、暴力や子ども虐待などは、まず家庭内で解決すべきだ



(8)女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ



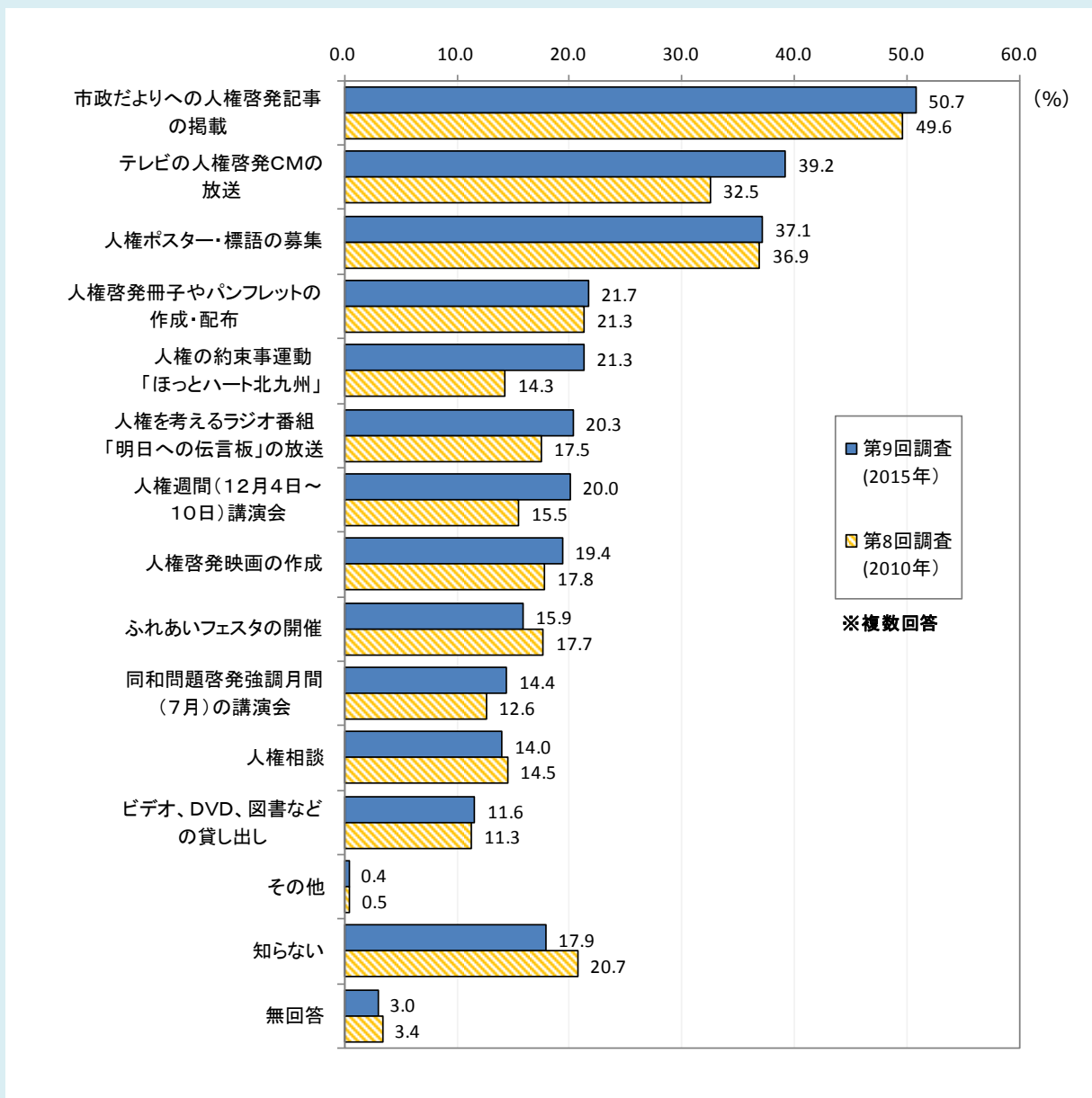
12 人権に関する学習や情報について

【問 30 あなたは、現在、北九州市が行っている次のような人権に関する啓発活動をご存知ですか。】

※第8回からの設問

「市政だよりへの人権啓発記事の掲載」が最も多く、次いで「テレビの人権啓発CMの放送」、「人権ポスター・標語の募集」の順となっています。前回に比べて「テレビの人権啓発CMの放送」が6.7ポイント、「人権の約束事運動」が7.0ポイント、「人権を考えるラジオ番組「明日への伝言板」の放送」が2.8ポイント、「人権週間（12月4日～10日）講演会」が4.5ポイント高くなっています。

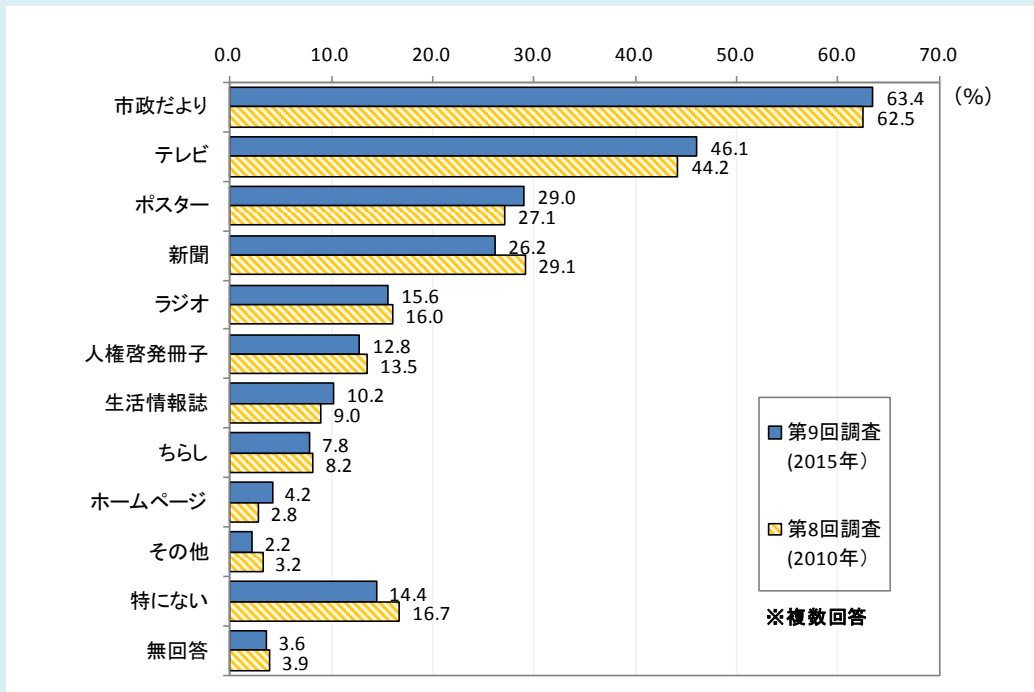
年代別にみると、「市政だよりへの人権啓発記事の掲載」は、20代～30代の割合が低くなっており、年齢とともに認知度が高くなっています。また「人権啓発映画の作成」、「人権啓発冊子やパンフレットの作成・配布」は、40歳未満が低く、40代～60代の割合が高くなっています。



【問 31 いろいろな人権に関する啓発活動の情報をどこから得ていますか。】

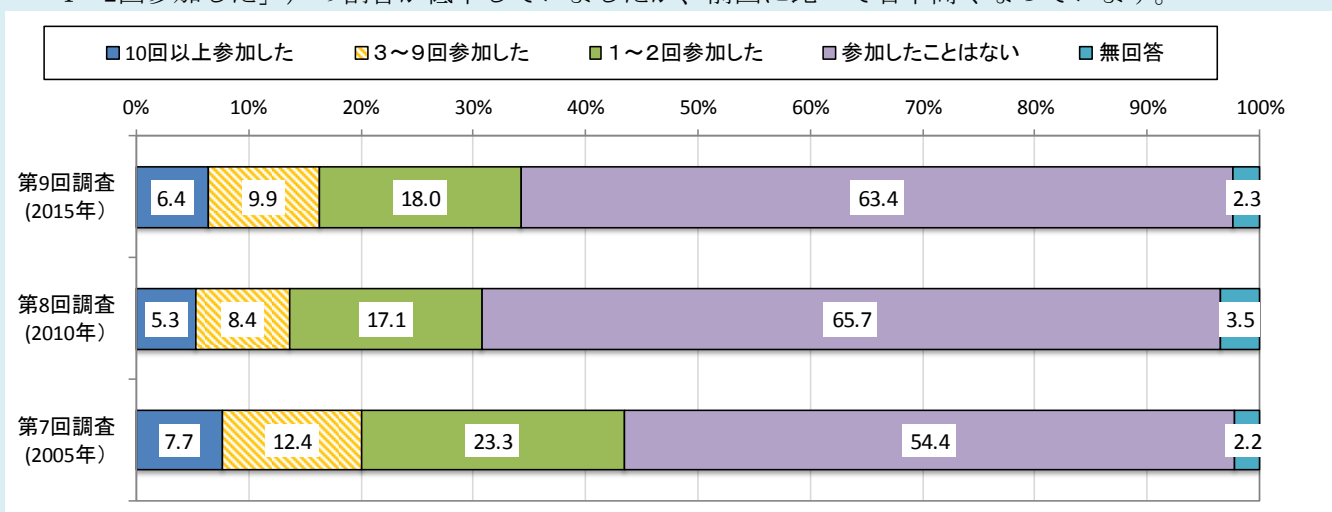
※第8回からの設問

「市政だより」が最も多く、次いで「テレビ」、「ポスター」の順となっています。「市政だより」、「テレビ」、「ポスター」、「生活情報誌」は、前回に比べて今回の方が若干高くなっています。年代別にみると、「市政だより」、「新聞」は、20代～30代の割合が低くなっており、年齢とともに高くなっている傾向がみられます。



【問 32 これまで人権に関する講演・研修に参加したことはありますか。】

前々回から前回にかけて、参加したことがある人（「10回以上参加した」、「3～9回参加した」、「1～2回参加した」）の割合が低下していましたが、前回に比べて若干高くなっています。

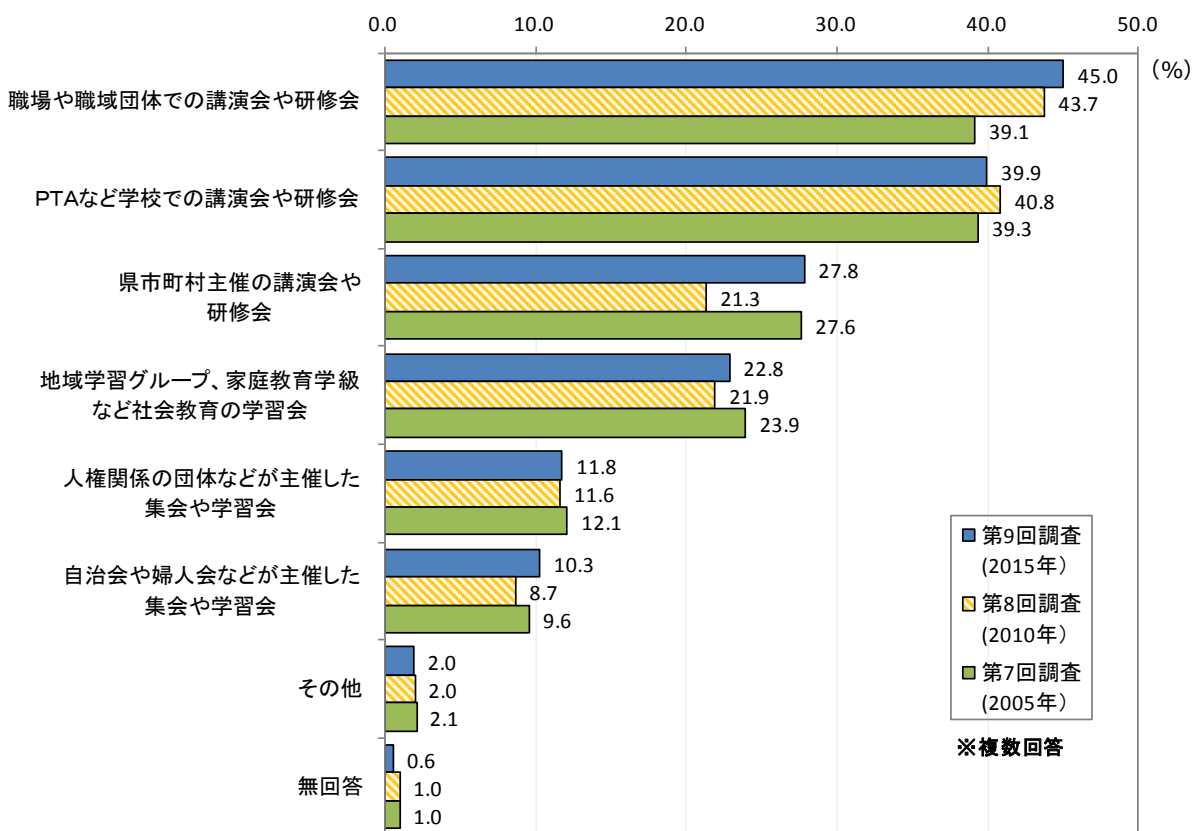


【問 32-1 参加したのは次のうちどれですか。】 ※人権に関する講演・研修に「参加したことがある人」の回答

「職場や職域団体での講演会や研修会」が最も多く、前々回、前回、今回と回を追うごとに上昇しています。

前回と比較すると、ほとんどの項目で今回の方が若干高くなっており、特に「県市町村主催の講演会や研修会」は、6.5ポイント高くなっています。

性別にみると、「職場や職域団体での講演会や研修会」は、「男性」56.2%、「女性」37.6%と男性の方が女性に比べて高くなっていますが、一方「地域学習グループ、家庭教育学級など社会教育の学習会」、「PTAなど学校での講演会や研修会」は、女性の方が男性よりも高くなっています。

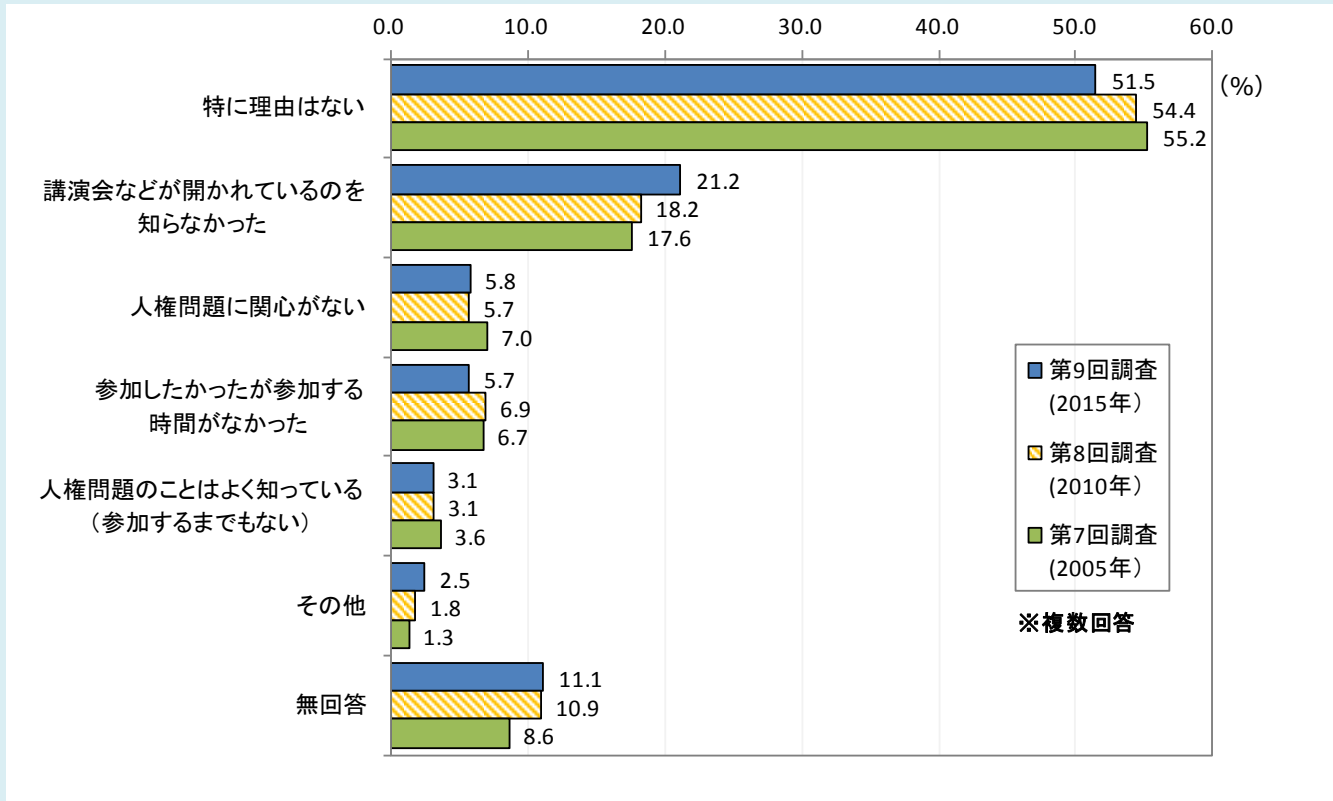


【問 32-2 参加したことがないのは、なぜですか。】

※人権に関する講演・研修に「参加したことがない人」の回答

「特に理由がない」が最も多くなっていますが、前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。

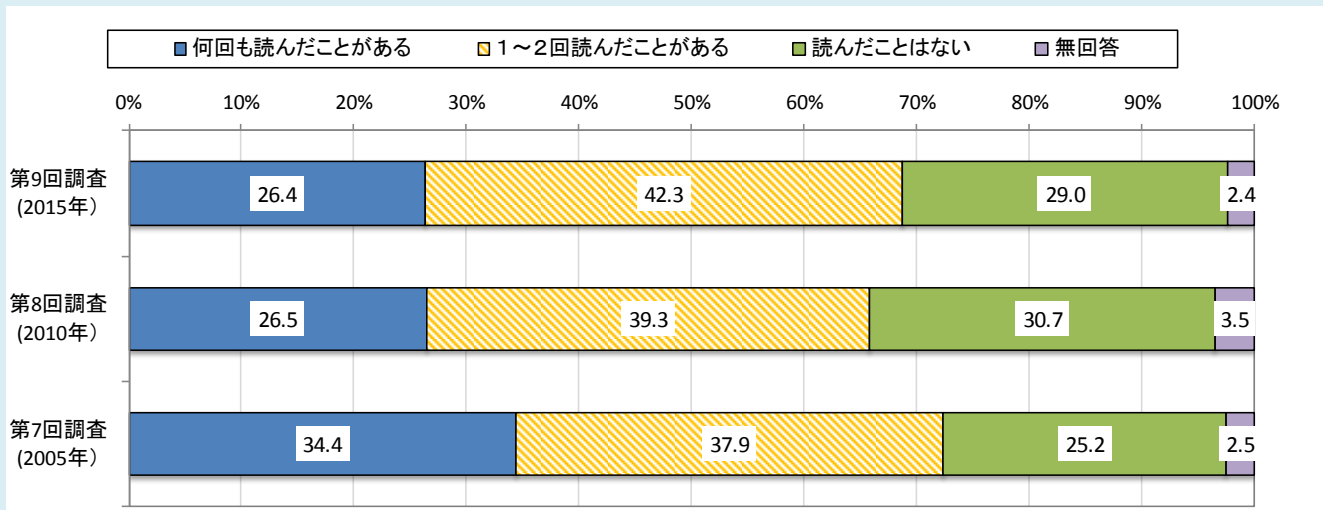
「講演会などが開かれているのを知らなかった」は、前々回、前回、今回と回を追うごとに若干上昇しています。



【問 33 北九州市の広報紙『市政だより』に掲載する人権に関する記事を、あなたは読んだことがありますか。】

1回でも読んだことがある人（「何回も読んだことがある」＋「1～2回読んだことがある」）の割合は今回が68.7%、前回65.8%と前回に比べて若干高くなっています。

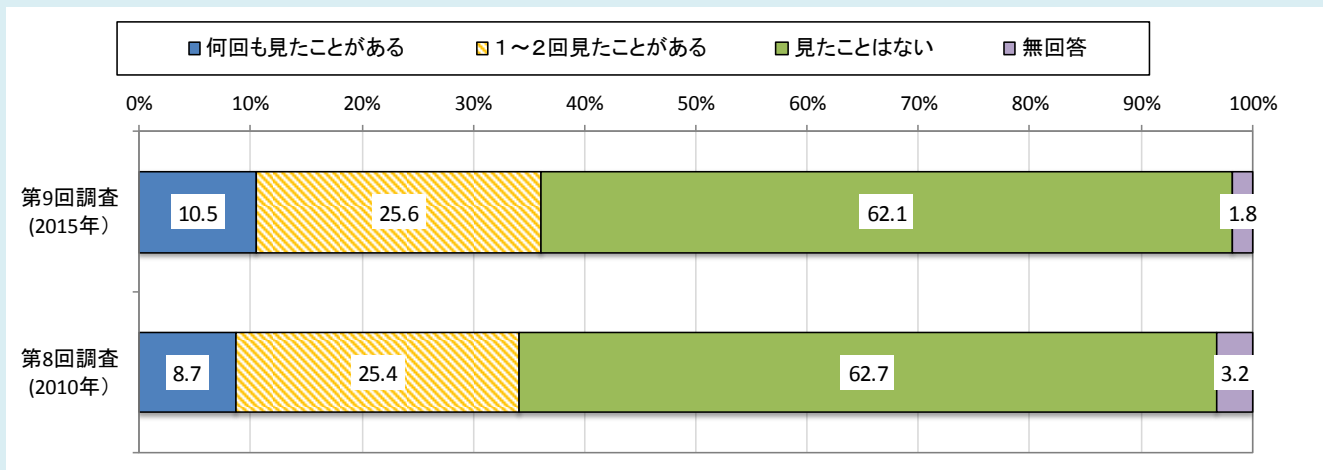
性別でみると、『市政だより』に掲載されている人権に関する記事を読んだことがある人（「何回も読んだことがある」＋「1～2回読んだことがある」）は、女性の方が男性に比べて若干割合が高くなっています。



【問 34 北九州市が制作した人権啓発映画を見たことがありますか。】 ※第8回からの設問

1回でも見たことがある人（「何回も見たことがある」＋「1～2回見たことがある」）の割合は今回が36.1%、前回34.1%と前回に比べて若干高くなっています。

性別でみると、市が制作した人権啓発映画を見たことがある人（「何回も見たことがある」＋「1～2回見たことがある」）は、女性の方が男性に比べて割合が高くなっています。

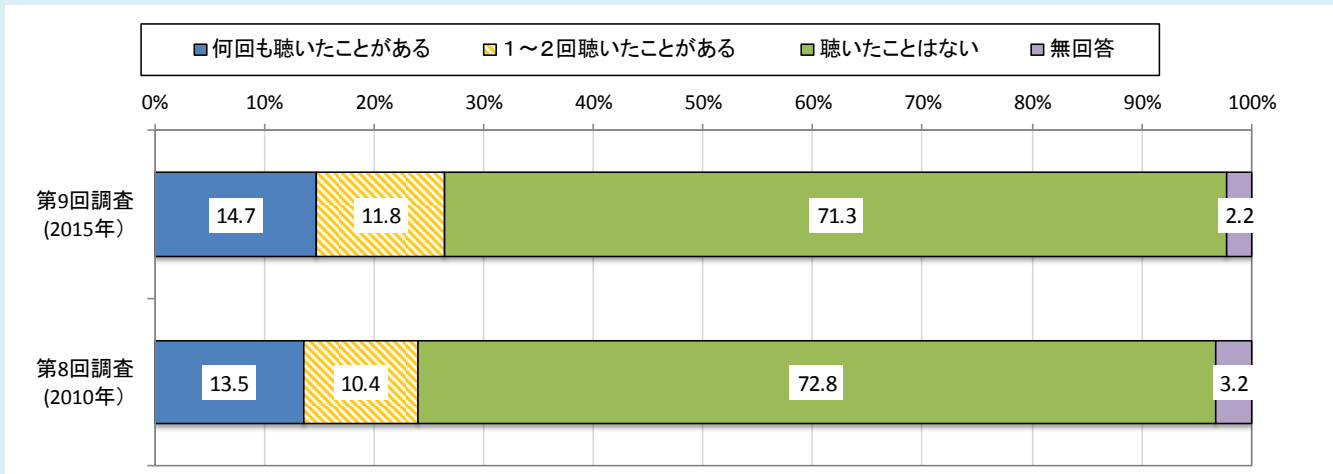


【問 35 北九州市が制作した人権を考える5分間のラジオ番組「明日への伝言板」を聞いたことがありますか。】

※第8回からの設問

1回でも聞いたことがある人（「何回も聞いたことがある」＋「1～2回聞いたことがある」）の割合は今回が26.5%、前回23.9%と今回の方が前回に比べ若干高くなっています。

性別でみると、市が制作した人権を考えるラジオ番組「明日への伝言板」を聞いたことがある人（「何回も聞いたことがある」＋「1～2回聞いたことがある」）は、男性の方が女性に比べて割合が高くなっています。

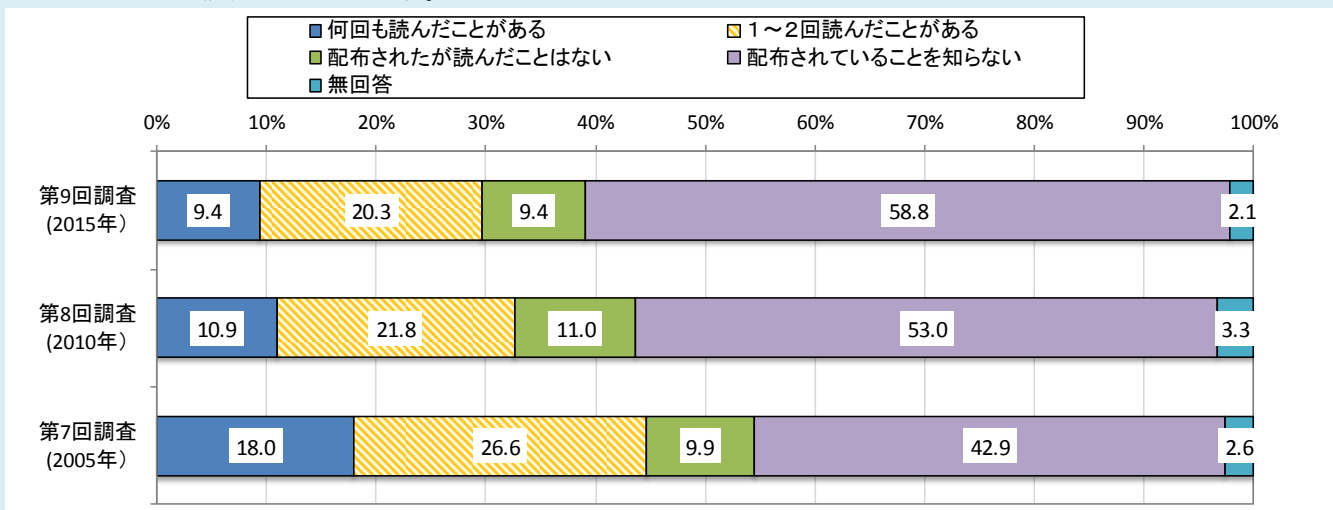


【問 36 毎年12月に、市内の各世帯に『いのち・あい・こころ』という情報紙を配布していますが、読んだことがありますか。】

1回でも読んだことがある人（「何回も読んだことがある」＋「1～2回読んだことがある」）の割合は前々回、前回、今回と回を追うごとに低下しています。

性別でみると、『いのち・あい・こころ』を読んだことがある人（「何回も読んだことがある」＋「1～2回読んだことがある」）は、女性の方が男性よりも割合が高い。

年代別でみると、『いのち・あい・こころ』を読んだことがある人（「何回も読んだことがある」＋「1～2回読んだことがある」）は、20代～30代では1割以下と低く、年齢があがるにつれて割合が高くなっている傾向がみられます。

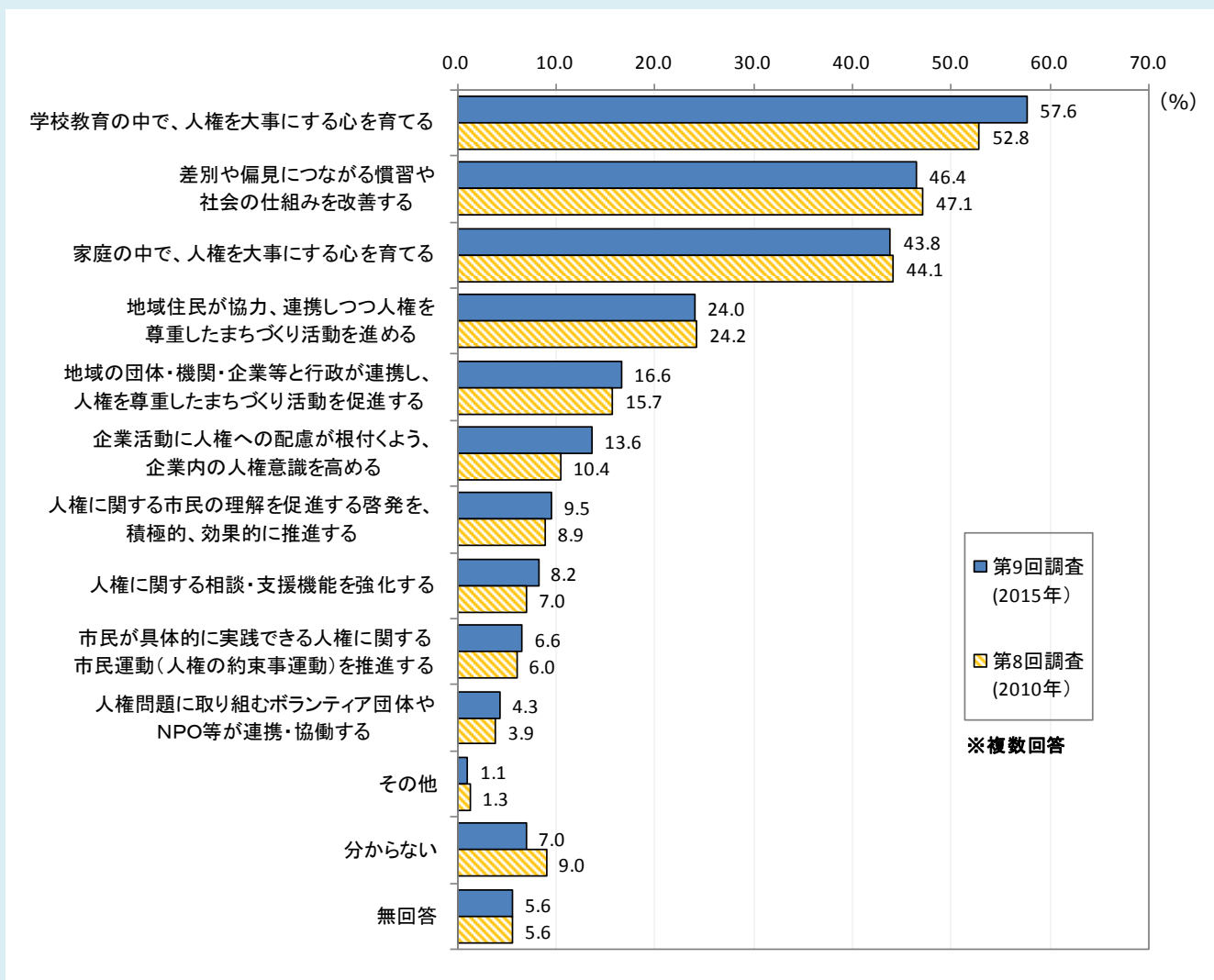


【問 37 人権の大切さを理解し、人権を尊重するという意識を高めて、「人権文化のまちづくり」を進めるためには、今後どのような取り組みを行えばよいと思いますか。】 ※第8回からの設問

「学校教育の中で、人権を大事にする心を育てる」が最も多く、次いで「差別や偏見につながる慣習や社会の仕組みを改善する」、「家庭の中で、人権を大事にする心を育てる」の順となっています。

「学校教育の中で、人権を大事にする心を育てる」と「企業活動に人権への配慮が根付くよう、企業内の人権意識を高める」が前回に比べて割合が若干高くなっています。

性別でみると、「家庭の中で、人権を大事にする心を育てる」は、女性の方が男性よりも割合が高くなっています。



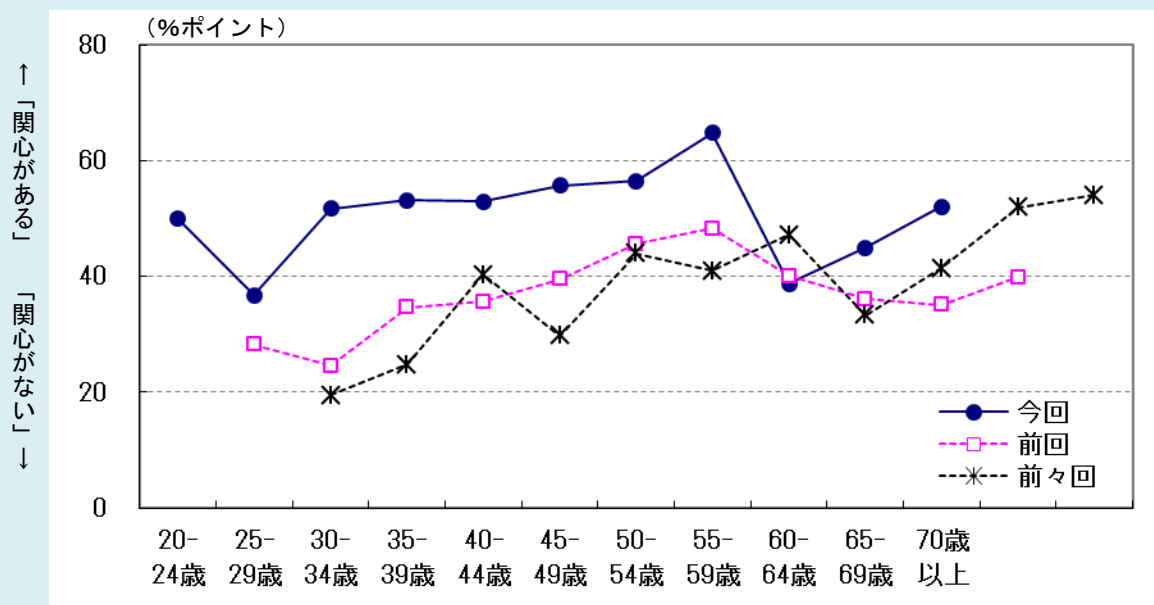
III 調査結果の考察

1 意識の着実な変化

《問4 国民の人権意識の高まり》については、まだ「高まっていない」という否定的回答が優勢であり、前回と今回の調査結果はほとんど変化していません。国民全体の人権意識については、まだ悲観的な見方がされています。

その一方、《問1 人権問題への関心》という自分自身のことについては、「関心がある」（非常に関心がある＋多少関心がある）と「関心がない」（あまり関心がない＋関心がない）の差は、前回の37.9%から今回は50.3%に大幅に上昇しました。「関心がある」という回答をコウホート（同一年齢集団）別にみると、20歳代から50歳代にかけて全般に増加しています。そのため、調査時点における何らかの事件の発生とその報道が回答に影響を及ぼしている可能性も考えられますが、全体として関心が高まっていると考えられます。

今後は、このような意識の変化に対応して、対象者の属性を考慮しながら、啓発事業の内容や方法を工夫していく必要があるといえます。



(注) 「関心がある」の合計－「関心がない」の合計。

2 啓発事業の重要性

北九州市が実施する啓発事業のなかでも、人権に関する講演・研修の開催と「市政だより」とは、いわば「キー」になっています。これらの事業に参加・接触した人は、ほかの事業への参加・接触状況も全般に高くなっています。

それだけでなく、これらの事業に参加したり、「市政だより」をよく読んだりする積極層は、人権問題に対して能動的で問題意識が高いと言えます。たとえば、《問21 同和問題の解決》に向けて、「市民の1人として積極的に努力したい」という回答は、「講演・研修」の積極層で31.1%（消極層は8.9%）、「市政だより」の積極層で25.2%（同7.4%）です。

こうしたことから、「市政だより」の活用や工夫を通じて、講演・研修への参加を促すことにより、問題意識の高い積極層を育てていく必要があるといえます。

平成28年3月発行（北九州市印刷物登録番号第1510150A号）

北九州市

（保健福祉局 人権推進センター 人権文化推進課）

〒803-0814 北九州市小倉北区大手町11-4 大手町ビル（ムーブ）8階
電話093-562-5010 メールアドレス ho-jinken@city.kitakyushu.lg.jp

人権の約束事運動「ほっとハート北九州」



マスコットキャラクター
モモマルくん

人権に関する身近なテーマを約束事として掲げ、それを自分たちで守りあうことで、人権尊重の気運を盛り上げる市民運動です。子どもから大人まで気軽に取り組める運動として、その輪は拡がり、この運動への参加が「人権」について考えるきっかけとなっています。

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。